

## キャリアパス委員会 年会企画報告

### ―若手研究者のキャリア形成における問題と展望―

2016年の年会では例年通り2つのランチョンセミナーの企画を立てました。今回もケータイゴングによる双方向会議システムを使用し、両企画とも大盛況でした。

一つ目は年会初日に「卓越研究員制度の活かし方―選ぶ側の論理と選ばれる側の論理」というテーマで行い、ゲストには文部科学省人材政策推進室の唐沢裕之室長に来ていただきました。前半は唐沢さんより卓越研究員制度の説明と初年度の実施結果についてご説明いただきました。後半は事前アンケートの結果とこれまでの委員会での議論を元に唐沢さんを交えてパネルディスカッションを行いました。内容については学会ホームページで公開している全文記録を是非お読みください。

卓越研究員制度の問題点として委員会で議論していたのは、年齢制限、マッチング率の低さ、生命系の倍率の高さなどです。「年齢制限」については、事前の文科省との打ち合わせでは、企業から要望もあり引き上げは難しいとのことでした。しかし2015年に実施した「ポストドクアンケート」では、分生会員のポストドクの59%は35歳以上という集計データがあることから、40歳未満の卓越応募要件は厳しいと言わざるをえません。これについては再検討をお願いしました。次に「マッチング率の低さ」についてですが、今年度は「卓越合格」になった卓越候補者の約半数が採用に至らなかったようです。この方たちには来年度もチャンスがあるそうですが、来年度はまた新規の「卓越合格」がでますので、引き続き状況は厳しいものとなるでしょう。1つの方策として、アカデミアと企業の募集を分けるなどして候補者の分散を図ってはどうか、との意見を伝えました。また、卓越候補者の名簿の公開も要望しました。卓越候補者が自主的に公開しているウェブサイト (<http://komodak.wixsite.com/takuetsukouho>) もあるようですが、やはり文科省からの公式版をだしていただいて、候補者のマッチングのさらなる後押しをお願いしたいです。最後に「生命系の倍率の高さ」ですが、24倍と2位以下をダブルスコア以上で引き離してダントツ1位の超難関となっています。募集の数を増やしてもらえるのが一番いいのですが、募集の区分を変更するなどして、一極集中を多少なりとも緩和する工夫はできると思います。

卓越研究員制度はまだ始まったばかりで問題山積ですが、委員会では今後もフォローし、文科省と協力して、若手研究者の元気の出る制度に作り上げていきたいと考えています。

もう一つの企画は、年会二日目に「これでいいのか大

学院教育！」というテーマで行いました。最初に私小林が事前アンケートの結果報告と問題点の整理をしました。文部科学省高等教育局大学振興課の菊地久美子大学院係長も傍聴に来られ、会場から貴重なご発言をいただきました。菊地さんとはセミナーの後も委員と1時間ほど懇談を行いました。セミナーで出た意見、アンケート結果は文科省に持ち帰って検討していただけるそうです。

私のプレゼンでお伝えしたかったことは、博士課程を修了しても将来アカデミックでポジションを得られる方は全体の10%にも満たない時代になったということです。大学教員はその辺を考慮して、研究指導はもちろんのこと、多方面で活躍できる人材の育成を目指すべきだと思います。

最近「ポストドク問題」等もあり、博士課程進学者数は減少していますが、それでも私が卒業した25年前に比べると約2.5倍に増えています。しかし、恐ろしいことに大学教員数は増えていません。これが多忙な教員を生み出し、教育の質、ポストドク問題にも影響を与えています。教員の数を簡単には増やせないとしても、すべての大学、部局で同じことをやる必要はないわけで、効率化をはかれるところは、まだまだあると思います。

このセミナーを通して、下のような負のスパイラルに陥るのは絶対に避けたいと思いました。このまま放っておくとその可能性も無きにしも非ずです。

### ポストドク問題→博士課程の進学者減少→教員の削減→日本のサイエンスの衰退

上のようにならないためにポストドク問題を解決できたらいいのですが、こちらは雇用問題なので、簡単にはいきません。次に有効で生産的なのは博士課程の進学者数の減少をくい止めることです。博士修了者が以前に比べて増えたと言っても、未だイギリス、ドイツの人口比で半分です。これ以上減ると、本当に科学技術立国を目指す日本の将来は暗くなってしまいます。会社の経営者や行政官が当たり前のように博士号を持っている欧米との差が開くばかりです。博士課程への進学者を減らさないためには、その後のキャリアで博士修了者が活躍できるような仕組みを欧米並みにしっかりと作る必要があります。

博士課程の進学者減少に関係して重要なことをもう1つ。大学院博士課程の学生に対する経済的支援をもっと充実させるべきではないでしょうか。現状では一部の学振DC採用者などを除き、多くの博士課程学生は仕送り、バイト、返還義務のある奨学金で生活費をまかない、授

業料も納めています。これはグローバルスタンダードから、かなりかけ離れています。

大学院生は日本の社会にとって重要な存在であるということをしっかりアピールして、私がキャリアパス委員会の委員長を務める2年間で、少しでも待遇が改善されるように努力いたします。

どうぞお力をお貸しください。

キャリアパス委員会  
委員長 小林 武彦

## 【卓越研究員制度の活かし方

### ―選ぶ側の論理と選ばれる側の論理―

- 日 時：2016年11月30日(水) 11:30～12:45
- 会 場：パシフィコ横浜 会議センター3階301
- 講 演：唐沢 裕之（文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課 室長）

2016年のキャリアパス委員会主催ランチョンセミナー・キャリアパス企画では、今年度より始まった卓越研究員事業について取り上げました。事前アンケートには485人の方にのべ374件の自由回答を頂き、当日は約260人の方に会場まで足を運んでいただきました。しかしながら、振り返ってみるに、これだけ多くの方にご協力いただいたにもかかわらず、「この事業をどのように自分なりに活用するかヒントになるようなものをそれぞれの立場の人に持ち帰ってもらおう!」、という当初の目標はあまり達成できなかった、というのが正直な感想です。実際、177人の方に答えていただいた事後アンケートの結果は「まあまあ面白かった」という人が半数近く、こういったアンケートに答えてくださるのは元々強い関心を持っていただいている人が圧倒的多数、というポジティブバイアスを補正すれば、「まあまあ面白い」は「イマイチ」と読みかえるべきで、もう少し事前準備をしっかりとしないとランチョンセミナーという限られた時間内で実質的な話し合いにはならない、ということを痛感した次第です。

今回のキャリアパス企画は、2016年3月30日のキャリアパス委員会の会合において卓越研究員事業を取り上げてみようという方向性が決まり、4月18日に一度文科省を訪問して、「この制度をどのように活かしていけば良いのかを考える会にしたい、是非担当の方に参加していただきたい」、という希望を伝えました。その際、文科省では夏に人事異動があるので、もし新しい担当者の参加を検討されているのであれば人事異動が終わった秋口のタイミングで内容を詰めた方が良いのではないかとというアドバイスをいただき、文科省の方にもいろいろと尽力していただいたところ、9月上旬に人材政策課で

対応していただけることになりました。その後、「採用される側」の知り合いの若手研究者の方にも協力していただいてアンケートを作成し、9月26日にアンケートを実施、その結果を持って11月8日に、小林委員長と事務局の並木さんと再度文科省を訪問しました。その時はランチョンセミナーでご講演いただく予定だった塩崎課長とお会いできるはずだったのですが、その前日に起きた研究不正関連の事案への対応で急遽キャンセルとなり（研究不正め、...）、代わりに人材政策課の課長補佐や係長の方に対応していただきました。アンケートの結果はかなり厳しいものであったこともあり、そのあたりを率直に伝えすぎてしまって話がなかなかみ合わなかったところもありましたが、若手研究者が活躍できるような環境を作ろうと日々尽力されている文科省の方々の辛苦はひしひしと伝わってきました。ただ、なんとなくですが、議論の中で、一番の当事者である若手研究者が置き去りにされているような印象を受けたのも事実です。一番印象に残ったのは、ポストを提示しながらも採用に至らなかった機関があまりにも多かったことは問題なのではないか、という点についての議論において繰り返し耳にした、「この事業は大学や研究所の人事権に抵触しないように設計されている」というコメントです。そういうことは考えたこともなかったので、こうしたら良いのではないかと、ああしたら良いのではないかと、僕らが脊髄反射的に考えることは、この基本方針に照らし合わせると editorial reject になるのかと妙に納得してしまいましたが、もう少し採用される側の立場を考えた議論がなされても良いのではないかと思います。また、卓越研究員候補者のリスト公開が何故できないのか、というこちらの質問に対して、担当者の方が「応募機関のインセンティブ」という言葉をよく使われていましたが、耳慣れない言葉で、最初は何を言っているのかよく分かりませんでした。確かに、文科省の補助金事業にどの機関も応募してこなかったら事業そのものが成り立たなくなりますし、大学なり研究所なり企業なり、ポストを用意してこの事業に応募してきた機関への「インセンティブ」を大切にするのは分からない話ではありませんが、応募する側の主たる層である若手研究者を一番大切にすべきはずなのに、ここでもやはり真の当事者が置き去りにされているのでは、という違和感を少なからず感じました。

その後、キャリアパス委員のパネリストの間でスカイプ会議を行い、これまでの経緯を振り返って問題点を整理し、特に、企業へのキャリアパス、いわゆる「卓越浪人」への対応、年齢制限、の3点に的を絞ってパネルディスカッションをしてゆくことになり、会場の意見もできる限り拾っていくことを確認し、当日のランチョンセミナーに臨みました。

残念ながら当初予定していた塩崎課長は予算編成時期ということもあり国会対応のために参加が叶いませんでしたが、唐沢室長に急遽ご登壇頂き、一応、形だけは文科省―採用機関側―応募者の3つの立場の人が一堂に会することができました。主な反省点は以下の4点です。

#### 1) 事前打ち合わせが足りなかった

可能であれば、文科省の側の人とも交え、スカイプ会議で良いので数回は話し合う機会を設けるべきだった。

#### 2) ケータイゴングで会場の意見を拾えなかった

司会の能力不足のせいでもあるが、会場からの意見をピックアップする時間を個別に設定したほうが良かった。

#### 3) 講演の時間が長すぎた

打ち合わせ不足のせいでもあるが、時間配分を見誤った。ここを15～20分ほどにしておけばもっと会場の意見を拾えたかも。

#### 4) 司会の練習不足

練習に費やした時間が短すぎた。

反省することばかりでしたが、たとえ大成功でなかったとしても、こういう企画を学会として粘り強く続けていくことは大切なことではないかと思います。特に、文科省の方々は「採用する側」の方々と接する機会は多いと思いますが、「採用される側」である若手研究者の声をフィルターなしに聞く機会というのは、基本的にはゼロに近いのではないかと思います。聞こえてくる声がゼロであれば、問題は存在しない、ということにもなりかねません。構成員の多くを学生や若手研究者が占める分子生物学会の年会において、当事者である若手研究者の声を施策側に伝えてゆく意義は、決して小さくないはずです。今後も、いろいろな人の手で、いろいろな形でこの手の企画が続いていくことを望んでいます。

(文責：座長・中川 真一)

### 〈アンケート〉 集計結果 (四捨五入しています)

#### 【問1】 あなたの年齢は？

|          |     |        |
|----------|-----|--------|
| ① 24歳以下  | 32  | 18.1%  |
| ② 25～29歳 | 27  | 15.3%  |
| ③ 30～34歳 | 33  | 18.6%  |
| ④ 35～39歳 | 27  | 15.3%  |
| ⑤ 40～49歳 | 34  | 19.2%  |
| ⑥ 50～59歳 | 18  | 10.2%  |
| ⑦ 60歳以上  | 6   | 3.4%   |
| 計        | 177 | 100.0% |

#### 【問2】 あなたの身分・職階は？

|                      |     |        |
|----------------------|-----|--------|
| ① 学部学生               | 12  | 6.8%   |
| ② 大学院生 (修士)          | 20  | 11.3%  |
| ③ 大学院生 (博士)          | 22  | 12.4%  |
| ④ ポスドク               | 30  | 16.9%  |
| ⑤ 大学教員 (助教・講師・准教授)   | 51  | 28.8%  |
| ⑥ 大学教員 (教授)          | 18  | 10.2%  |
| ⑦ 研究員                | 10  | 5.6%   |
| ⑧ 主任研究員・チームリーダー・室長以上 | 5   | 2.8%   |
| ⑨ 企業                 | 8   | 4.5%   |
| ⑩ その他 (民間助成財団職員)     | 1   | 0.6%   |
| 計                    | 177 | 100.0% |

**【問3】 このセッションを何で知りましたか？（※複数回答可）**

|                      |     |        |
|----------------------|-----|--------|
| ① 学会ホームページ           | 51  | 25.1%  |
| ② 年会ホームページ           | 64  | 31.5%  |
| ③ 会報                 | 6   | 3.0%   |
| ④ プログラム集             | 51  | 25.1%  |
| ⑤ ポスター               | 5   | 2.5%   |
| ⑥ 会場内の広告             | 16  | 7.9%   |
| ⑦ フェイスブック            | 0   | 0.0%   |
| ⑧ クチコミ               | 4   | 2.0%   |
| ⑨ その他（Twitter）       | 2   | 1.0%   |
| ⑨ その他（通りすがり）         | 1   | 0.5%   |
| ⑨ その他（ランチョンセミナー事前予約） | 1   | 0.5%   |
| ⑨ その他（記述なし）          | 2   | 1.0%   |
| 計                    | 203 | 100.0% |

**【問4】 このセッションを開催した時間帯はどうでしたか？**

|                    |     |        |
|--------------------|-----|--------|
| ① ランチョン形式でよかった     | 168 | 94.9%  |
| ② ランチョン以外の時間帯がよかった | 5   | 2.8%   |
| ※ 未記入              | 4   | 2.3%   |
| 計                  | 177 | 100.0% |

**【問5】 前半の講演はいかがでしたか？**

|              |     |        |
|--------------|-----|--------|
| ① とても面白かった   | 31  | 17.5%  |
| ② まあまあ面白かった  | 75  | 42.4%  |
| ③ 普通         | 60  | 33.9%  |
| ④ あまり面白くなかった | 6   | 3.4%   |
| ⑤ つまらなかった    | 0   | 0.0%   |
| ※ 未記入        | 5   | 2.8%   |
| 計            | 177 | 100.0% |

**【問6】 後半のディスカッションはいかがでしたか？**

|              |     |        |
|--------------|-----|--------|
| ① とても面白かった   | 30  | 16.9%  |
| ② まあまあ面白かった  | 74  | 41.8%  |
| ③ 普通         | 29  | 16.4%  |
| ④ あまり面白くなかった | 9   | 5.1%   |
| ⑤ つまらなかった    | 2   | 1.1%   |
| ※ 未記入        | 33  | 18.6%  |
| 計            | 177 | 100.0% |

**【問7】 今後このような試み続けるべきだと思いますか？**

|                     |     |        |
|---------------------|-----|--------|
| ① 是非続けるべき           | 128 | 72.3%  |
| ② 続けるべきだが方法を変えた方がよい | 33  | 18.6%  |
| ③ やめた方がよい           | 1   | 0.6%   |
| ④ わからない             | 7   | 4.0%   |
| ※ 未記入               | 8   | 4.5%   |
| 計                   | 177 | 100.0% |



【問8】このセッションに関する感想をお聞かせください。

- ・時間が足りないようだ
- ・コネのあるなし問題は、一般的にはない方が平等のように思えるが、コネなしにすると大学名とかが有利になるし、逆に不利になる人もいる。また、一緒に働く人がどういう人か知ってからの方が研究はチームワークなのだから重視するのはいいような気がする。
- ・もう少しディスカッションの時間が長い方がよかった。この制度によって、博士号もった人の今後の職（働ける場）が広がってほしい。
- ・卓越研究員制度について理解できた。候補者の半分以上しか採択されないのは制度として問題があるように感じる。
- ・企業とのマッチングや、企業がどんな研究をやっているかわからないという意見があったが、分子生物学会には多数の企業が参加している。学会として企業に研究紹介をすすめてはどうか？例えばポスター発表に企業枠を作ったり、企業用の研究紹介コーナーを作ったり。
- ・Ph.D.の将来は、不安がいっぱいです。
- ・卓越研究員事業1年目の動向を聞いて参考になりました。
- ・夜でもっと長く
- ・時間短く、双方向性が低い。
- ・いかにも“カンリョウ”という人が出てきて、興味深い。
- ・生の学生やポスドクの声に対してのディスカッションがもっとあるとよい。
- ・ふざけるな！ 実情を知らなすぎる。パネリストも勝者の論理だ！
- ・知らない人は取りにくいので教授等が知り合いの人に卓越に応募するようすすめれば良いという小林先生の意見、表面上はマッチング率が上がるが力のもったところにお金が回るだけで意味がない。
- ・制度（事業）の現状・課題を知ることができて、よかった。
- ・リアルタイムでアンケート結果がわかり、面白かった。
- ・勉強になりました。
- ・卓越の制度の価値がいまいちわからなかったです。募集されている人数と応募した人の人数に差が生じたのは仕方のない部分もあると思うので、根本的には解決をするのは難しいなと思いました。
- ・制度に関して、良く理解できた。
- ・現在41才、女性ですが、出産育児休暇等でブランク有です。ライフイベントのブランク有無で年齢制限を考えて頂けたらと思います。
- ・卓越について勉強になりました。
- ・スライドの字が小さい。スライド枚数が増えてパッパと切りかわってしまっても良いので大きい字にしてほしい。オーディエンスから募ったコメントについての言及が少ない。
- ・立場のへだたりを感じられて良かった。
- ・ポスドクのキャリアパスについて考える良い機会になった。
- ・会場の意見を拾う→アンケートの題材に使う パネリストの意見がつまらない。文科省の人だけでいい。
- ・タイムリーで良かったです。研究大学の教員の雇用状況においてシニアの雇用が増えている分中間、若手の分が減っていることがわかった。
- ・色々な問題・改善点があるとは思いますが、様々なキャリア・パスを生み出すためには多くの試み・制度が必要と思うので、どんどんとり組んでほしい。ただ卓越研究員制度に受かる人は学振にも受かるのではないかな。業績のとり方などは難しい気がする。
- ・コメントから質問をもう少し取り上げた方がよい。せっかく参加しているのだから、ある程度は回答するとより議論が盛り上がると思います。パネルディスカッション時間がもう少し長いと良いと感じた。
- ・ポスドク・アカデミックなキャリアに関する状況についてのデータがたくさんあり、状況把握にいいセッションでした。
- ・修士・博士課程に進んだ後のことが学べてよかった。聴いている人の意見がみれるのは面白い。
- ・企業側がパネリストにいない。アクセスキーが消されてしまって入れなかった。
- ・様々な立場からの意見や、事業の問題点がわかったのがよかった。
- ・研究環境に関する制度変更などに関するセミナーは積極的に参加しないこと多く、このような場で知識をインプット、リフレッシュアップデートしてもらえると助かります。
- ・「卓越」ときくと、とても優秀な研究者のためのポストという印象がありますが、中をみれば産学官。名前と内容がマッチングしていない。優秀だけど社会に出られないアカデミア only の人はたくさんいる。その人を救う制度も必要。
- ・パネルのコメントがあまりとり上げられていなくてごんねん。もっとうまく進行してほしい。
- ・就活生でもあるので、すごく身近に感じた。
- ・卓越について疑問があったので参加してよく理解でき、問題点等も把握できて良かった。
- ・文科省の情報がリアルタイムにきけてよかった。
- ・自分の大学（私大）では資金は有りそうなので、大学側が積極的にPIに働きかけて若い人のポストをつくってあげるべきと思った。（良い人に大学にきてもらう）
- ・就職って大変
- ・日本は少数特化型より分散型、多数底上げ型のやり方で良いと思う。AMEDも含めて、卓越研究員制度はやめた方がよい。
- ・分かりやすかった。
- ・フロアからの声を取り上げる機会がないので、議論が一方通行だった気がする。
- ・その場で行うアンケートは良かったと思います。
- ・世界的に見ると企業のR&Dはポスドク2年の経験を必要とするので、ポスドク／助教の経験の撤廃はナンセンスかと。グローバル人材の育成を考えると研究経験は必要かと思います。
- ・ディスカッションがおしたので、プレゼンの時間は短縮してほしい。
- ・候補者として勉強になった。
- ・よかったと思います。会場からのコメントに回答していただけるとより良いと思います。
- ・もっと時間がほしい
- ・意見投票システムのアプリをちがうものにしたほうがよさそうです。E.x. イマキク、スグキク 投票された意見に「イイネ」をつけられるので、会場の興味がある質問がpick up しやすくなると思います。
- ・どこでも多様性は必要だと思います。
- ・マッチングが何をしているのか、やっぱりよくわからなかった…。

- ・後半の時間をもっととってほしい。
- ・「若手」として想定されているのは30～40歳のようですが、それ以前、大学～院修了後数年の人間への扱い、置かれる環境が全くふれられておらず、とても限定的な印象でした。
- ・パネルディスカッションよりフロアからの質問に答えてもらいたかった。
- ・データの解析を文科省任せにしない方が面白い結果が見れるかも。
- ・皆の意見がみられて面白かった。
- ・皆が参加できる形式で、とてもよかったと思います。
- ・若手研究員の独創的研究に期待します。
- ・27才・地方大学・D2学生です。参加してよかったです。
- ・小林先生が我々が言いたいことをいってくれてよかった。
- ・もう少し時間が必要。
- ・時間をもう少しとるべき
- ・議論の中心がマッチングできない人についてになっていたが、そこに達するのが難しいことなので、他人事の話のようになってしまった。幅広い層の研究者が幸せになれる制度にしてほしい。
- ・制度がよくわかった。
- ・ランチョンよりも、もう少し時間をとって議論した方が、有意義だと感じた。応募する立場の若手も、パネリストに必要。
- ・フロアの質問に対しての回答が少なすぎる。
- ・もっと Communication できたらよかった。カキコミ式は Good → もっと QA に発展すれば有意義！
- ・前向きな取り組みで素晴らしいと思いました。来年度も是非よろしくお願いします。
- ・何のために大きく書き込みを出しているのか？ フロアの意見もひろってほしい。パネラーが自分の意見をのべるだけの時間が長いです。
- ・卓越研究員に関する情報をまとめて知ることができ、よかった。
- ・話題あたりのディスカッション時間をもう少しのばしてほしい。マッチングの低さは大問題。
- ・後半のディスカッションは興味深かったです。
- ・もっと、メッセージを取り上げて欲しい。
- ・文科省、学振の人をもう何人か増やすべきだった。一方的な議論になっていると感じた。
- ・官僚の人 v.s. 司会・委員長という形に終始したイメージ。フロアの人メッセージを出す必要はなく、単に後で議論をまとめた冊子でも済む印象。
- ・参加型のパネルディスカッションに参加するのが初めてだったので面白かった。ポストを求める研究者と文部科学省の間で研究に専念できる環境に関して意識のずれがあると感じた。
- ・企業の人でも1人入れたら良かったかも。
- ・皆、若い人(30前半)を欲しがることが再認識できた。年齢は、人間としての成熟度の指標のひとつであり、企業の中にもうまく入れると思うが…。特に、子育ての経験のある女性は、仕事の効率化の意識は相当高く、またコミュニケーション能力も若手や男性研究者に比べ断然高いですよ！ 小林さんが、学振 DC → 学振 PD → 卓越研究員…という話をされていたが、それならばなおさら申請資格の40才未満はやめて欲しい。なぜなら、学振 PD も、数年前から学位取得後5年以内となり、年齢制限は廃止されてますよ！ 現在40才の私は制度の過渡期にある現在はとてもツライ！！ 40才未満を救済する制度らしいが、期限つきポストをやりつづけてる40才以降はどのように救済するのか？ ポスト 1万人計画の被害者は40才以降ですよ！
- ・フロアの意見がリアルタイムでわかるのはよかった。
- ・今後、卓越研究員事業の発展・改善・成熟に期待したいと思います。
- ・制度自体あまり知識がなかったので、よい機会であった。
- ・卓越研究員の話聞かせていただきました。このような制度に年齢制限があるのが腹立たしいです。海外の複数の大学で修業して、研究能力に自信をつけて帰国したら職が見つからないという状況は、笑えません。若くして職につきながら低レベルな発表をしている方を見ると、つくづくそう思います。
- ・具体性がない。わざわざ人が集まって行う程の内容ではなかった。

#### 【問9】来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください。

- ・特になし
- ・卓越研究員以外の一般研究員の将来はどうか？
- ・研究費の削減に関するものや、大学院生（博士）の進路など。
- ・40才以上のキャリアパスに関してテーマ設定して頂きたいです。
- ・研究者同士が結婚した場合、勤務先が近くでない場合、別居あるいはどちらかが研究を諦めることになる問題
- ・たまには男女共同参画もとり上げて欲しいです。(最近、キャリアパスの問題に片寄りがち)
- ・企業不在のキャリアセッションの意味がわからない。結局民間は希望していないのかと思います。
- ・教員の削減について(国立大学)
- ・教員削減時代での研究環境の改善対策立案とそのための予算確保
- ・同じテーマで1年後どうなっているかをやってほしい。
- ・文科省の人と話せる貴重な機会なので、JSPS 事業を継続的にとりあげてほしい。
- ・任期制スタッフの更新制限のあり方(改めるべきポイント)
- ・上司に恵まれなかった場合の若手研究者の生き残り術
- ・キャリアパス(博士後の)を、本人が意識し、本当に考え始めるのがとても遅いと感じています。私(京大 M1)の周りでも、目的意識があって大学や院に来ている者は半分もいない様子です。すると、問題の根は中～高校生の頃の教育や環境となってくると思います。そのような問題意識が、今、社会を動かせる立場の方々にもっと広がることを期待します。(そのようなテーマのセッションも期待します) 年上の方々に期待したい内容です。ぜひお願いします。
- ・引き続き同じネタを取り上げて欲しい。
- ・来年も今年度の成果を聞きたいです。
- ・任期制助教制度のあり方 良い点・悪い点
- ・引きつづきこのテーマをつづける。
- ・クロスアポイントメント制度について

- ・企業での研究をイメージできていない方が多い印象なので、「企業研究者のキャリアパス」についての議論を是非お願いします。
- ・卓越研究員
- ・学部別の研究・開発職の採用実績
- ・類似しているが博士号取得者の進路の多様性について、皆で議論する必要がある。
- ・女性研究員のライフイベントを含めたポジションへの展望とか？
- ・子育て女性研究者のサバイバル法

#### 【問 10】 本年会での属性調査（添付資料）をご覧になった感想をお聞かせください。

- ・女性が少ないから育児の支援をするというのはおかしい。そもそも女性ばかりにさせるのではなく、男性がひきうけやすくする方がいい。
- ・特になし
- ・特にありません。
- ・詳しく書いてあり良かった。
- ・女性の現在おかれている状況がよくわかった。
- ・欧米と比較し、女性の割合が明らかに低いと思います。
- ・女性が増えた方がいいと思う。
- ・女性の率、今後 UP していく必要性を感じました。
- ・若い女性が研究を続けるためにはやはりオーガナイザー・スピーカーの立場の方を増やす必要がある。少し積極的に女性を増やす制度があっても良いと思う。良いロールモデルに気づく機会となるはず。以前シンポジウムのスピーカーの半数が女性となったものがあった。オーガナイザーの方が考えて F/M 比を工夫したのだと思う。
- ・女性は研究の進歩が遅いのでしょうか。無理矢理何とかするべきではない。
- ・最近、少しだけ女性のスピーカーが増えてきたかもしれない。
- ・グラフ・数値が多く分かりやすい資料でした。
- ・毎年同じ内容でつまらない。
- ・とくになし
- ・女性の organizer, speaker が少ない理由は女性の PI と助教などの少なさに起因する結果だと思います。その意味で分生の比率は生命研究業界の縮図といえると思いました。
- ・話を聞きつつ、短時間で見るには分かりにくい資料でした。発表者、オーガナイザーの女性の比率が低いという事は、どこかに問題があるのだと思います。その原因と対策とに迫ってもらえると良かったと思います。
- ・女性の方が、発表やオーガナイズするのがきらいなのではないかと思いました。
- ・会員の 25% が女性だが、オーガナイザーやスピーカーの女性が占める割合は、10 ～ 15% であり、少ない。おそらく、教授級の職に女性が少ない。そのため、そのような階級の女性を増やすべき。しかし、増やすことばかり考えて、能力・実績のない女性を登用することがないように注意すべき。
- ・長年みてますが、なかなか女性の割合が上がりにませんね。
- ・スライドを Web 上にあげて、オープンアクセスにしてほしい。
- ・Figure の凡例のフォントが小さかった。
- ・参考になりました。
- ・女性率が低いのが残念。

#### 【問 11】 その他、ご自由にどうぞ。

- ・ハンドルネームでメッセージを送るのはいいアイデアだと思うが質問とかに答えてもらえないなら、逆にない方がいい。
- ・中川先生おつかれさまでした。
- ・アカデミアと企業で評価するポイントが異なるのではないかとこの点は重要ではないかと思いました。
- ・このセミナーで、応募資格がないこと知りました。
- ・コメントを取り上げて、内容に答えてほしかったです。
- ・卓越に採用される人が応募者約 800 人に対して 160 人（?）、就職が決まった人が 80 人だとそういう人に出会う機会がおそらく私には無さそうで、できることならそういう人をロールモデルとして今後のキャリアを考えたいのもっと情報開示をしてほしい。そもそも D 進する人が周囲に少なく、就職先がなかった時のためのリスクマネジメントや研究ではない職で妥協するためにどうしたかなど、成功しなかった時のイメージができなさすぎて進学をためらってしまう。教授に相談したところで彼／彼女はポストを得た人なのであまり参考にならない。
- ・前半の講演はもっと短い方がいい。最後にもう一度「期待するか」アンケートをとったら？ No ばかりになったはず。
- ・Academia と企業は分けた方がいい。野心的テーマを資金付で来てくれるならぜひ欲しいですね。
- ・レジュメが欲しかったです。
- ・とくになし、でも将来学生減、教員減でつぶれる大学多いでしょうね。
- ・海外からの参加者です。会場に Wi-Fi が入らずコメントを送れませんでした。文科省の人のコメントで「意見として聞き検討したい」というのが多かったのですが、文科省の人の個人的な考えが聞きたかったです。
- ・メッセージを聞き手が送りながら、ディスカッションを進めるスタイルが良いと思いました。
- ・毎度思いますが、投票意見をベースにした Discussion がされてないのがもったいない。テーマを 1 つにしぼって、会場の興味ある意見をたくさんひろうほうが、100 人集まる意味もある。分生にしかできないとくみだと思うのでよりブラッシュアップを期待します。
- ・「職」が安定しないと生活、生存もおびやかされる日本の社会は生き辛いなと思います。
- ・前半の講演の最初の分析説明が長かったので卓越研究員制度についてもう少し詳しくききたかったです。
- ・スマホでのコメントは面白いが、フロアの参加者も含めて生でディスカッションした方が活発になるのでは？
- ・まず、あふれる 40 代をどうにかしてほしい。
- ・Q&A がもっと必要
- ・もっとフロアの意見をひろってディスカッションしてほしい。
- ・ネットを介して Yes, No を聞く方法はすごくいいと思いますが、ネットが使えない人のために Wi-Fi をとばしてほしいです。



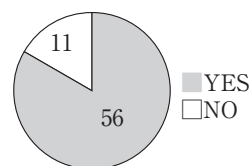
- ・おもしろい企画でした。
- ・パネルディスカッションが面白い（充実している）。夜、ビールでも飲みながら行う方が面白いと思う。
- ・今回のテーマは非常に重要な問題なので継続すべきだと思う。
- ・大学生の頃、海外へ留学し、年配の女性が定年退職後に若者とともに学生として学んでいたりと、多様性があり、刺激的であった。また、ごく自然にそのような機会が多くみられていた。日本では、その点でも、多様性を指摘しながらも年齢制限を設けるなど多様性に否定的だと感じざるを得ない。
- ・コネが多すぎてポジションがないのにうそ公募が多すぎる。うんざり。

## 〈ケータイアナライズシステム〉

### 〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）

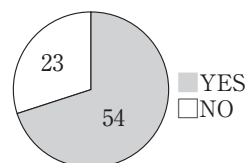
#### 設問 1. 卓越研究員制度に期待していますか？

|       |    |        |
|-------|----|--------|
| ・ Yes | 56 | 83.6%  |
| ・ No  | 11 | 16.4%  |
| 計     | 67 | 100.0% |



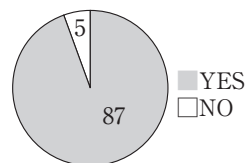
#### 設問 2. 企業で研究してみたいと思いますか？

|       |    |        |
|-------|----|--------|
| ・ Yes | 54 | 70.1%  |
| ・ No  | 23 | 29.9%  |
| 計     | 77 | 100.0% |



#### 設問 3. 卓越研究員のリストを公表した方が良いと思いますか？

|       |    |        |
|-------|----|--------|
| ・ Yes | 87 | 94.6%  |
| ・ No  | 5  | 5.4%   |
| 計     | 92 | 100.0% |



### コメント一覧

| No | ハンドルネーム      | コメ ン ト                                                                                              |
|----|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | おやじ          | 卓越研究員制度に期待します。                                                                                      |
| 2  | びけどん         | 受け入れ側としては任期なしは不可能。せめて、選ばれた人には数年のポストの権利が欲しい。せっかく卓越研究員に選ばれてもマッチングできないのは絶望以外にないよ、                      |
| 3  | J.J.         | 修士卒も申請できるようにして欲しいです                                                                                 |
| 4  | Sk           | 面接は大切なスクリーニングプロセスだと思います。面接渡航費の支援をしてでもしたほうが良いと思います。                                                  |
| 5  | 子育てブランクあり研究員 | 博士号取得まだ2年目ですが、2人の子育てでブランクあり、今年40歳です。申請資格ないのがホントにツライ                                                 |
| 6  | いまい          | 企業の研究って具体的になにしてるかあまりわからない                                                                           |
| 7  | jh           | 企業向けは経産省、アカデミックは文科省のように分けて制度を作ったほうがいい。少なくともアカデミックポジションの募集としては制度設計が甘い。                               |
| 8  | sk           | 結局、ポストのフェローシップの域を抜けれていない感があります。                                                                     |
| 9  | yk           | 博士卒の人がすべて大学の教員になれない以上、もっと人材が民間に行けるような社会にしなければいけないし、学生やポストもその現状をしっかり認識すべき。卓越研究員はそのきっかけになる制度になり得るのでは？ |
| 10 | 学生           | 企業の研究職＝技術職のイメージ。                                                                                    |
| 11 | ナナシ          | 製薬会社に候補者としてアポを取って面接にいきましたが、文科省からの資料が届いていないと言われました。30代後半だと、研究よりは管理職候補だと言われて、企業で好きな研究はできないのだなと思いました。  |
| 12 | 企業研究員        | 聞き逃したのかもしれませんが、企業に入社した人と、卓越研究員で企業で研究してる人の違いは何ですか？お給料？任期？                                            |
| 13 | taka         | 受け入れ機関の面接があるのだから、結局受け入れ機関の人とコネがないと採用されない。卓越研究員に選ばれましたからぜひ採用して欲しいと言っても無理。企業側としてもそうなのでは？              |



| No | ハンドルネーム   | コメ ン ト                                                                                                                  |
|----|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 14 | たるお       | このアンケートのページのアクセスの仕方をもう一度説明したほうが、解答率が上がるのでは？                                                                             |
| 15 | ポスドク 1 年目 | 現状のマッチング率を受けても、次年度以降予算を安定して確保できるのでしょうか？ 科学技術費が削減されている中で、安心感がありません。                                                      |
| 16 | sk        | 受け入れ機関にとって卓越研究員の任期後の取り扱いが難しそう。<br>任期無し雇用 or40 過ぎの無職？                                                                    |
| 17 | 地方私大 PD   | 卓越研究者は任期ありポストですか？<br>テニユアとの違いがはっきりと感じられない。                                                                              |
| 18 | mi        | 安定を必要としているのは、30 代後半から 40 代だと思います。                                                                                       |
| 19 | あんぱん      | マッチングした 83 人の中で推薦枠ではない人は何人いたの？                                                                                          |
| 20 | Yuki      | 6 番の方と同じ意見です。アカデミアの方は、漠然と企業での研究はルーチン作業ばかりのイメージが強いと思います。そういったイメージが最終的に企業を敬遠する理由の 1 つではないでしょうか。                           |
| 21 | 学生        | 卓越は、学振からのステップアップにはならないでほしい。学生時代に全て決まって、学振が取れなければ研究者になれなくなりそう。                                                           |
| 22 | D-loop    | 卓越研究員に選ばれるような実績のある方なら卓越研究員にならなくても就職先はみつかるのでは？ 才能（たとえば企業が欲しているような能力）、能力はあるのに実績がともなわない人もマッチングできるようなシステムが必要では？             |
| 23 | d3        | コメントで流れてくる基本的な質問についてはコメントで答えてあげればこういうシステムももっと良くなる気がします                                                                  |
| 24 | taka      | あんぱんさん、推薦枠かともとも強力なコネがある人しか実質採用されていないと思います。制度としては普通の学振特別研究員の方がフェアでは？                                                     |
| 25 | jh        | 落下傘候補のように申請書で選んでも募集機関の要望と違う基準で選ぶからむしろマッチングうまくいかないのは当然予想できた。<br>PD,DC の選考があまりいいとは思ってないので、その延長の制度だと斬新な人は受からないと思う。         |
| 26 | aska      | 今の段階で決まってる人はほとんどがアカデミアからの推薦なのでは？ だとしたら普通に任期なしになれる人が通ってこの制度で本当に救われる人があまりいないという危険性があるのでは？                                 |
| 27 | 大猿        | 我が国では、この手の制度に年齢制限が付き物なのが、残念です。そもそも年齢で門前払いされるのは、何とかならないでしょうか。<br>海外のいくつかの大学で何年も研究生活を送り、能力に自信を付けて帰国したら就職先が無いという状況は、笑えません。 |
| 28 | sss       | 候補者の中で、採用先が決まらない場合は、候補者として審査を通ったという実績は意味の無いものになるの？                                                                      |
| 29 | JJ.       | 博士号取得者が安定したポジションに着けないのは、社会にニーズがないから。<br>そもそも博士号取得者を量産することが間違っているのでは？                                                    |
| 30 | aa        | 23 番の d3 さんに同意です。ここのコメント欄にある質問をもう少し取り上げた方が良いセッションになると思います。                                                              |
| 31 | ポスドク 1 年目 | マッチングが目標にたどり着かない現状で、次年度以降安定的に予算を確保できるのでしょうか？                                                                            |
| 32 | (^ω^)     | 結局企業のニーズと研究者のシーズがあっていない以上、なかなか企業の卓越研究員って増えないんだろうなあ。                                                                     |
| 33 | KI        | 設問 3、「卓越研究者」と「卓越研究者候補」を分けて質問しないと正確ではないのでは？                                                                              |
| 34 | いまい       | 年齢制限撤廃したら、制限ありの場合とアブライする年齢層に違いはあるのかな                                                                                    |
| 35 | drug      | 制度を知りませんでした。企業では出ないような創業アイデアを持つ方なら、年齢関係なく興味ありますね。                                                                       |
| 36 | d2        | 卓越研究員制度終了後も、職場は保証されない。<br>安定した職場を求める者にとって、この制度の意義がよくわからない。                                                              |
| 37 | TY        | 民間を志向する人は、そもそもこの制度を利用せず、自力で何とかしてる人が多いのではないだろうか？ と、自らの経験から思います。                                                          |
| 38 | a         | 年齢制限ではなく、年齢別にクラス分けして募集しては？                                                                                              |
| 39 | \(^o^)/   | パネリストはどちらかという選ぶ側の人ばかりだよなぁ。一方通行になってるのでは？                                                                                 |

| No | ハンドルネーム | コ メ ン ト                                                                                                                |
|----|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 40 | びけどん    | 知り合いのオーストラリア人は60歳で博士号とって大学の講師になってるのに。日本の年齢差別はひどすぎる。                                                                    |
| 41 | J.J.    | 次やる時は皆のメッセージを手元のデバイスでも見れるようにして欲しいです！                                                                                   |
| 42 | .       | 36さんの言うとおり、安定が保証されない限り卓越研究員のメリットが感じられないです。                                                                             |
| 43 | 大猿      | 米国では求人条件に年齢を入れるのは禁止ですね。差別だから。                                                                                          |
| 44 | びけどん    | 採用する側の先生の政治力で決まってしまう。卓越研究員に応募してもらって通ったのに。                                                                              |
| 45 | RA      | もしマッチングがいかなかったら、ある程度の期間後に、候補者リストを公開して、いわば、一般公開マッチングに移行するような2段階で考えていけばよいのではないのでしょうか？<br>今後の卓越研究員事業の改善・発展・成熟を期待したいと思います！ |
| 46 | 中堅      | 卓越研究員の審査において、女性を積極的に引き上げるよう別の審査員から要請があった。しかし、卓越レベルにある女性を探し当てるのが困難であった。                                                 |
| 47 | sk      | パネルに現役研究者側が居ないとディスカッションにならないと思います。<br>次回に期待します。                                                                        |

### 【これでいいのか大学院教育！】

- 日 時：2016年12月1日(木) 11:30～12:45
- 会 場：パシフィコ横浜 会議センター3階301
- 司 会：胡桃坂 仁志（早稲田大学理工学術院、構造生物・創薬研究所 所長）

「大学院教育」は教育を受ける博士課程の学生のみならず、進学を検討する修士課程の学生、指導する教員も関心を寄せている。本セミナーの開催に先だって大学院教育に関するアンケート調査を行った結果、500を超える多くの回答をいただき、大学院教育に対する関心の高さが浮き彫りになった。今回のキャリアパス委員会企画セミナーでは、「これでいいのか大学院教育！」と題して、まずはキャリアパス委員会委員長であり、生物科学学会連合のポストク問題検討委員会委員長である東京大学分子細胞生物学研究所の小林武彦先生より、アンケート結果の要点をご紹介いただき、大学院教育が抱える問題について講評をお願いした。

### 〈変化する「博士」という資格の役割〉

冒頭、博士の大量生産時代に入った結果、博士の資格としての役割が変化していると小林先生は述べた。具体的には1990年代の博士の大量生産時代によって博士の役割が変わり、何かを研究して成果を出した人（論文博士）から、定められた課程を修了し、高度な教育を受けた人（課程博士）となってきている。そして役割が変わったため、その活躍の場も多様化し、アカデミック職だけでなくいろいろな分野で活躍が期待されている。現状の課題として、(i)博士号取得者の全てがアカデミック職に就くことは難しく、(ii)博士が生き残るためには新たな「技」の習得が必要である、という点が挙げられ、このために大学院教育を見直す必要がある。つまり高度な

教育という点で大学院教育の重要性を改めて考え直さなければいけない。

アンケート調査の結果において、「大学院進学時に卒業後の就職状況や進路についての説明はありましたか？」という設問に対し、「なかった」という回答が多数であった。「大学院修了後の進路についての希望」が、「海外／国内でポスドク」、「企業の研究職」、「助教など大学常勤職員」がほとんど同じ数の結果であったことを考えると、これらの選択肢についての説明が大学院生に対して行われることが望ましい。一方、「将来の希望職に就くための就活以外の準備をしていますか？」、「就活を有利に進めるための取り組みを行っていますか？」という設問に対しては「いいえ」が多数であった。博士の役割が多様化している現状では、これまでとは異なる多様な準備を要することを再認識する必要がある。また、「大学院での指導や教育は充分である（あった）と感じますか？」という設問に対して、「不足」「放置」との回答が3割に上り、大学院教育における大きな課題であると指摘された。「現行の大学院教育制度において、どのような点を改善した方がよいと考えますか。」、という設問には様々な意見が挙げられており、特に「講義と研究の比重」、「英語教育」、「研究室異動の難しさ」の3点が目立った。「大学院において、どのような内容の講義をおこなったらよいと考えますか？」は「統計学、プログラミング、インフォマティクスなど」、「研究倫理」、「論文・申請書の書き方」、「国内外の研究者によるセミナー」という実利的な4つの内容についてもっと講義が欲しいという意見が多かった。特に英語に関しては、プレゼン・論文作成の訓練は重要なので増やすべきだという意見が一番多かった。英語力は研究者としてのみならず、様々な職種においても重要になるので、是非トレーニングして欲しい。講評の最後に小林先生は、「大学院教育の見

直し時期にそろそろ来ており、制度だけでなく、精神面も変えていかなければいけない」と締めくくった。

その後、パネリストが登壇し、聴衆とケータイゴングを利用したパネルディスカッションが行われた。議論のテーマとして「なぜ大学院に進学したのか」、「現在の学生と教員の比率はどうか」などオーソドックスなテーマから、「博士課程進学後のキャリアに関する不安」といった内容など、幅広い意見を汲み上げることで、型にはまらない自由な議論が展開された。特に盛り上がった3つのトピックを中心に本議論を振り返りたい。

#### 〈指導教員あたりの学生数は少なくすべき？現状維持？〉

現在の教員：学生の比率は1:6～8であり、アンケート結果ではもっと少ない方がいいという意見が挙がった。理想的には教員1人に対して5名程度（各学年1～2名）だろうと指摘する意見がある一方、学生間で切磋琢磨することも大事であり、ある程度多い方がいいのではないかという意見も挙げられた。教員と密に付き合っていきたいのか、学生同士で切磋琢磨し合いたいのか、という二つの考えの両立が難しいために、意見が分かれるのであろうと分析された。続いて、大学院教育に「システマティックで質の保証された教育」「どこでも活躍できるような知的生産能力を身につける教育」「とにかく研究だけでできればいい」などのいずれを求めるのが議論された。アンケートの結果、多数の聴衆は「どこでも活躍できるような知的生産能力を身につける教育」を求めており、従来考えられていた「とにかく研究だけでできればいい」という考え方の学生が減少していると指摘された。一方、教員は「研究重視」型が多数である。教員側が学生に望むものと、学生が望んでいるものが違うということを入れないと、今後の大学院教育の改善は困難であろう。また、欧米では常識である、博士課程学生の給与に関しても、日本では立ち後れている。これには社会的な支援が必要であり、我が国の基礎研究を世界的なレベルに保って行くためには、実現に向けて常に働きかけていくことが重要であろう。

#### 〈副指導教員制度の効用〉

大学院教育において、教員と学生のマッチングが重要であると唱える声が多かった。最初から良いマッチングができればそれに越したことはないが、間違ったマッチングの場合、副指導教員制度を活用すべきだという指摘がなされた。風通しのいい教育制度を構築するため、副指導教員制度について名古屋大の取り組みを例に紹介していただいた。副指導教員の存在は、指導教員とは異なった視点でのコメントをもらい、学生の視野を広げるのに有用である。もちろん教員の板挟みにあい、学生が悲惨なことになるように、教員側のモラルも重要である。

確かにこの制度が正しく機能しないこともあり得るが、副指導教員制度を正しく活用することは学生にとって多くのメリットがあり、今後はより多くの大学で導入すべきであると結論づけられた。これに伴い、充実した大学院教育のできる研究室についても言及された。大学院教育がうまくいく研究室はポストドクを多数有する研究力を持った研究室である場合が多い。研究成果をポストドクが中心的に出してくれれば、PIは学生に過度に期待する必要がなくなり、より大学院生のレベルに合わせた大学院教育が可能となる。一方、研究の主戦力が大学院生だけの場合、大学院生に過度な研究成果を期待することになり、大学院生のレベルに合わせた大学院教育は後回しにされがちになる。充実した大学院教育とポストドク制度は、どちらも我が国の基礎科学を発展させるために重要な課題として考えるべきであろう。

#### 〈海外留学のススメ〉

海外での研究経験は重要であり、行きたいと考えている人はぜひトライすべきという意見が口火を切った。さらに、行きたいと思ったときが行くべきときであるとの指摘がなされた。海外経験で得るものは多く、将来アカデミックに残るだけでなく、企業に行くにしても貴重な経験となるため、是非行って欲しいという意見が続いた。パネリストからは海外留学を強く勧める意見が多数挙げられた一方、実数として海外に行く人は大幅に減っているという問題が指摘された。海外には行きたいがその先が不安であるという意見と、ポストドクは先がないから博士に行かないと考えることとは、将来への不安が共通の要因として存在している。今回の議論では、実際に海外に行ったパネリストの話を中心に、留学先での研究生活で得られたことを議論した。海外での研究経験によって、日本での研究職だけでなく、海外のアカデミックポストやベンチャー企業への就職の可能性が広がり、多様な進路を考えられるようになったと意見がなされた。先を見ようと言っている、先が見えないのが問題であるが、それはアカデミックだけではなく、今の日本社会全体で起きている共通の問題である。逆にそういう時代にこそ、博士を持つことによって、国内にとどまらないキャリアパスを持つという選択が実は良いのかもしれない。また、博士課程において、仕事を計画、立案し、遂行する能力を身につけることは、どのような職種においても重要なスキルとなるであろう。これらのスキルを、博士課程進学の特長としてアピールすることは悪くないのではないか、と議論された。

今回の企画において、余裕をもって研究と教育を進めるための、博士課程の大学院生の経済的援助、教員数の確保とポストドクの安定的な雇用など、大学院の研究教育

環境の構築の支援が必要であることが議論された。若い人たちがとにかく頑張って元気な日本の研究社会を作っていく、そのために私たちができることを考え、若い研

究者のサポートを行うことが重要であることを再認識する良い機会となった。

(文責：座長・胡桃坂仁志)

# 〈アンケート〉 集計結果 (四捨五入しています)

## 【問1】 あなたの年齢は？

|             |     |        |
|-------------|-----|--------|
| ① 24 歳以下    | 57  | 32.0%  |
| ② 25 ～ 29 歳 | 33  | 18.5%  |
| ③ 30 ～ 34 歳 | 16  | 9.0%   |
| ④ 35 ～ 39 歳 | 14  | 7.9%   |
| ⑤ 40 ～ 49 歳 | 35  | 19.7%  |
| ⑥ 50 ～ 59 歳 | 21  | 11.8%  |
| ⑦ 60 歳以上    | 2   | 1.1%   |
| 計           | 178 | 100.0% |

## 【問2】 あなたの身分・職階は？

|                      |     |        |
|----------------------|-----|--------|
| ① 学部学生               | 17  | 9.6%   |
| ② 大学院生 (修士)          | 44  | 24.7%  |
| ③ 大学院生 (博士)          | 25  | 14.0%  |
| ④ ポスドク               | 6   | 3.4%   |
| ⑤ 大学教員 (助教・講師・准教授)   | 39  | 21.9%  |
| ⑥ 大学教員 (教授)          | 22  | 12.4%  |
| ⑦ 研究員                | 6   | 3.4%   |
| ⑧ 主任研究員・チームリーダー・室長以上 | 6   | 3.4%   |
| ⑨ 企業                 | 10  | 5.6%   |
| ⑩ その他 (招聘教授)         | 1   | 0.6%   |
| ⑩ その他 (記述なし)         | 1   | 0.6%   |
| ※ 未記入                | 1   | 0.6%   |
| 計                    | 178 | 100.0% |

## 【問3】 このセッションを何で知りましたか？ (※複数回答可)

|                       |     |        |
|-----------------------|-----|--------|
| ① 学会ホームページ            | 50  | 25.0%  |
| ② 年会ホームページ            | 69  | 34.5%  |
| ③ 会報                  | 6   | 3.0%   |
| ④ プログラム集              | 48  | 24.0%  |
| ⑤ ポスター                | 5   | 2.5%   |
| ⑥ 会場内の広告              | 13  | 6.5%   |
| ⑦ フェイスブック             | 1   | 0.5%   |
| ⑧ クチコミ                | 6   | 3.0%   |
| ⑨ その他 (ランチョンセミナー事前予約) | 1   | 0.5%   |
| ⑨ その他 (記述なし)          | 1   | 0.5%   |
| 計                     | 200 | 100.0% |



【問4】このセッションを開催した時間帯はどうでしたか？

|                    |     |        |
|--------------------|-----|--------|
| ① ランチョン形式でよかった     | 170 | 95.5%  |
| ② ランチョン以外の時間帯がよかった | 6   | 3.4%   |
| ※ 未記入              | 2   | 1.1%   |
| 計                  | 178 | 100.0% |

【問5】前半の講演はいかがでしたか？

|              |     |        |
|--------------|-----|--------|
| ① とても面白かった   | 83  | 46.6%  |
| ② まあまあ面白かった  | 61  | 34.3%  |
| ③ 普通         | 22  | 12.4%  |
| ④ あまり面白くなかった | 2   | 1.1%   |
| ⑤ つまらなかった    | 0   | 0.0%   |
| ※ 未記入        | 10  | 5.6%   |
| 計            | 178 | 100.0% |

【問6】後半のディスカッションはいかがでしたか？

|              |     |        |
|--------------|-----|--------|
| ① とても面白かった   | 98  | 55.1%  |
| ② まあまあ面白かった  | 49  | 27.5%  |
| ③ 普通         | 12  | 6.7%   |
| ④ あまり面白くなかった | 3   | 1.7%   |
| ⑤ つまらなかった    | 1   | 0.6%   |
| ※ 未記入        | 15  | 8.4%   |
| 計            | 178 | 100.0% |

【問7】今後このような試み続けるべきだと思いますか？

|                     |     |        |
|---------------------|-----|--------|
| ① 是非続けるべき           | 145 | 81.5%  |
| ② 続けるべきだが方法を変えた方がよい | 19  | 10.7%  |
| ③ やめた方がよい           | 0   | 0.0%   |
| ④ わからない             | 3   | 1.7%   |
| ※ 未記入               | 11  | 6.2%   |
| 計                   | 178 | 100.0% |

【問8】このセッションに関する感想をお聞かせください。

- ・教員側が悪という流れが強かったが、学生側の意識も問題だと思う。相互からのインタラクションが大事。
- ・大学院教育に関係なく、自分が今まで知らなかった事、知っておかねばならないことをたくさん学ばせていただきました。
- ・普段は所属している研究室の先生としか関わりがないので、たくさんの教授の方のお話が聞けて面白かったです。
- ・教員のコミュニケーション能力の向上が必要と実感した。大学基準協会の評価を上げるために院生を増やそうとしている意図を感じます。数字をみて人を見ていない。
- ・パネルディスカッション
- ・スマホでないので参加出来なかった。
- ・知らなかったシステムなどを知れてよかったです。
- ・リアルタイムにメッセージが現れるのが本音が見えて良かった。
- ・自分としてはこの時間帯でよかったが、ランチョン目的で来てる人は、食べたらずらり出たり、イヤホンきいてたりしたので、ランチョン目的でない、うしろに席がなくて立ってた人たちがいるので、この時間に、ランチョンでやるのが最適とはいえない。
- ・勉強になりました。院へ進学し、海外の経験も積みたいと実感できました。ありがとうございました。
- ・もっと大きい会場でたくさんの人にきいてほしいです。
- ・面白かったがアンケートの意見に対するコメント時間が不足で消化不良（でも全体の時間があるので仕方ない）。
- ・大学毎の教育に対する取り組みの違いが大変参考になった。
- ・学生側からもパネラーを出しては？
- ・参加者を教員に絞ったスタイル、学生に絞ったスタイルなど参加者別にしてみても面白いかも。
- ・パネリストの方々のやりとりが大変面白かったです。
- ・いろんな意味でちぐはぐな議論だった！
- ・学部、修士、博士に対する教育方針の前提がないのでまとまらない。留学も良いけど日本に帰ってきてポストがあるかわからないので若い人はトライしないのでは。博士もちが活躍できる例がないと。

- ・アンケート結果がすぐに反映されて、セッションが進んでいくのがおもしろかったです。
- ・修士教育もまじめに議論すべきでないですか？ 生命科学分野は集中講義などといって、修士講義コマ数まびいて適当なこととしているところ多いのでは？
- ・キャリア形成に対する幅広い考えを聞くことができた。
- ・コメントを集める意味があまりなかったように感じた。パネリストにはコメントに対する意見・反論をしてほしかった。
- ・木村先生のご意見はどれも本当に納得するものばかりだった。自分の今と今後を考えるいい機会になった。胡桃坂先生の勢いもとても良かった。
- ・不安や主張をディスカッションできたので、先生・学生間の心情が共有できた。
- ・今後このような試みは続けるべきだが方法を変えた方がよい。大学院(大学学部を含む)の教育に対してあまり関心のない人、「改善しなくても良い」に近い考えの人の意見を聞いてみたい。内容はおもしろかった。
- ・生の声を聞き Discussion 形式で行うのは効果的で良いと思った。
- ・毎年、身近な問題を取り上げてくれて、考えさせられるので良い機会だと思う。
- ・大学院生のキャリアパスについて、ここまで考えている先生方がいらっしゃる事に感動しました。胡桃坂先生の熱い話が心にひびきました。
- ・あつい議論であったと思う。院生の給料問題は財源も含めて議論すべき。
- ・もう少しケータイをつかったシステムを改善しては。たとえば司会の人がある場で思いついた設問を臨機応変に出せるようにするなど。
- ・副指導教官という制度をはじめて知った。うちの大学にも設置してほしい。
- ・研究室教育の見直しの契機になる。
- ・現状の問題点を確認することはできたが、その解決法のハードルが高そう。
- ・うまく構成されていた。もう少し時間をとってもよかった。
- ・博士への進学は考えていないが、大変面白いセッションでした。大学院教育についてもっと考えてみようと思いました。
- ・とても良いセッションだと思います。ありがとうございました。
- ・いいかんじ。
- ・どんどんやってください。
- ・前向きなのはいいが理想論に終始しすぎている。日本のリアルな現状を知らなさすぎる。全体的にナイーブ。
- ・パネリストが喋ると、Web 上の意見を両方飲み込むのが大変だった。面白かった反面情報量がすごく多いと思いました。
- ・全員が同じ意見ばかりでつまらなかった。結論ありきで進行していた気がした。
- ・主指導、副指導の話で時間をとりすぎた感じがしたがそのようなシステムがまだない大学もあることを知りました。
- ・ずいぶん楽しく行うディスカッションでした。携帯形式が良かったです。
- ・博士修了後のことを考える上で、アカデミック分野(大学や研究所)だけでなく、一般企業の研究職に就いてる方々を呼んで欲しかった。
- ・携帯参加型で学生をはじめリアルな意見を聞けておもしろかった。大学の研究室で若い研究者が活躍できるように、制度、資金を作るという方針に大賛成です。学生に夢を与えたいと思います。
- ・自分が学生のときにこういうものがあればよかった。
- ・未来を考えるきっかけになった。
- ・設問が4つだったので、設問を1つにしてほり下げてほしい。
- ・リアルタイムでメッセージを送信できて、とりあげられる形式がよかった。参加できている感があり、よりよく考えられた。
- ・今後大学院教育を考えていく上で非常に参考になりました。ところでインターンシップは土日祝日に行うべきだと思います。あるいは春夏秋冬休みに限定するように企業も考えてもらいたいと思います。また、理科大薬学部ではアドバイザー教員(別の研究室)がいます。
- ・キャリアについて皆さんが全体でどう考えているのか、が分かり大変興味深いです。
- ・副指導教員の話は大事だが長すぎてテーマがそれてしまっていると思った。留学の話は良かった。胡桃坂先生の司会も良かったと思います。
- ・学生と教員間に価値観・考え方に違いがあるので、それを認識する場としては良かったと思います。
- ・教育に関して熱心に考えている先生がいることを知れて良かった。興味のない先生こそ、こういうセミナーに出てほしい。
- ・学生に理解ある先生方がいらっしゃることに感動しました。
- ・同じ悩みを持つ人がいることがわかり、匿名性の意見出しのメリットが活かされていたと思う。
- ・聴いている方も参加できてとても面白かったです。
- ・まとまりはあまりなかった。
- ・社会全体に存在する労働問題が大学院教育とキャリアにも及んでいると思う。社会全体の労働問題を解決しないでアカデミックだけを解決することは困難だと思う。
- ・おもしろい。もっと長くても良い。午前中全部使っても良い。
- ・いろいろな意見を聞かされたがもう少し大学院教育そのものについて議論を深めてもらいたかった。
- ・育てたい学生像が2つあるが、そこを区別して考えないと、まとまりがつかないのでは。→研究 main の Dr. に皆がなる必要はない。
- ・司会、良かったです。いろいろな意見が聞けて、勉強になりました。
- ・とてもためになるセッションでした。研究室でも、上司が少なく、博士が少なく、修士が多い状況です。博士の後のキャリア提示を大学(研究室)側がきっちりと作り出さないと…博士は増えません…。
- ・地方国大に勤務しておりますが、学生の意識が低い、熱意ある学生へ割ける時間がない。
- ・正直、大学や教員の方、国が博士をどういう意図で求めているのか本音がわからない。結局出口(卒業後のキャリア)が改善されなければ今回の議論の意味も薄いと感じました。博士に対する絶対的なブランドが確立されなければ今後も博士・ポストドクは大変なのは。なのでセレクションを厳しくして一定の質を確保するのは良いと思います。無意味に増やしているのならば、今後の進学者のためにもやめた方がよいと思う。就職への改善を行っていても、就職に有利な研究室・分野の人数が増えるだけでは、本当に研究を行う人たちが減少していく気がします。特に基礎系。長々とすいません。
- ・リアルタイムでコメントによる議論が行われるのは有意義であると感じた。
- ・率直な意見が沢山あって、初めて参加しましたが有意義な時間となりました。
- ・とてもよかったと思います。
- ・1人で悩むよりも将来はもっとポジティブで明るいと感じられました。大学院教育に関しては文科省が話しあってもらえることに期待したいです。

- ・先生方が学生のキャリアパスに興味を持っているということが分かって良かったです。
- ・もう少し問題や論点を絞ったほうが良い。でも司会がわるいので仕方ない。昔話とグチは不要。現状と、改善案について話してほしい。個々の研究室の問題とシステムの問題をきちんとわける。
- ・博士課程はアカデミックのキャリアパスしかないと思っていたが、外国ではさまざまなキャリアパスをえがけると知り、おどろきました。
- ・教員側、学生側両方の意見がみえてよかった。
- ・もり上がっていて興味深く感じました。「行きあたりばったり」の話は勇気と希望をもらいました。
- ・夕方時間帯がよい

#### 【問9】来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください。

- ・企業の人をふくめた討論
- ・修士で就職することについて。
- ・大学・大学院教育の充実から日本の未来を変える！！（小林先生の最後のまとめの続きを！）
- ・ブラック研究室について
- ・お金（授業料、奨学金、学振）→文科省の人をパネリストに。
- ・修士学生の進路選択について。
- ・教育の議論をもっとまじめに。また、パネラーの教育の具体例もしめしてほしい。
- ・留学についてもっと知りたい。
- ・女性の社会進出を考える前に、専業主婦希望の女性が多いことを理解した方がよい。働きたくない人に働くことを要求するのはムダ。
- ・大学院（大学学部を含む）の教育に対してあまり関心のない人、「改善しなくても良い」に近い考えの人の意見を聞いてみたい。
- ・研究費のとり方
- ・博士を採用した企業の例を実例として、企業に入った人の話を聞く。
- ・研究者とワークライフバランス
- ・女性博士号取得者のキャリア形成
- ・院生の給料。
- ・実際の修士、博士、学部生が話す時間があればいいと思う。
- ・重点化によるカリキュラム変更のさらなる見直し。
- ・留学のすすめなど、どうでもいい話。ガチでもっと大学院教育の問題を考えてほしい。教員の資質とか、ポストの問題とか。
- ・教授とのコミュニケーションのとり方
- ・とくになし
- ・お金（院通学や留学）問題
- ・「これでいいのか研究費配分！」「これでいいのか業績評価！」「これでいいのか大学学部講義！」しばらくはこれでいいのかシリーズを続ければ良いと思います。改善がなされた後は「これでいいのだ」シリーズに変えていけます。
- ・同じ設問を立てて、経年変化を見ていただきたいです。
- ・女性の教員を増やすという話がありましたが、その辺現実的につめた内容をお願いします。
- ・どういう人が博士に進学して欲しいか。能力はどのくらい必要なのか、どういう人は向いてないのか。
- ・学部生向けのもやってほしい。
- ・文科省の方もパネルに参加しなければポストなどの問題は進まないと思います。
- ・研究職以外の進路について
- ・修士や博士で就職した人やアカデミックに進んだ若い人もパネリストに加えて、キャリアパスについて考えてみたい。
- ・大学院教育の質の保証が重要課題の一つ。研究室によって受けられる教育に差がありすぎるが結果は博士の学位で同じ。
- ・大学院生も登壇させても良いかも。
- ・「PIの側をいかに育てるか」（PIの責任が大だと思うので。今の状況も含めて）
- ・修士と博士の就職率のちがい
- ・任期付き職員（ポスドク、テクスタ…）のキャリアなど。
- ・20年も30年も前の技術（自分の業績）に固執して新技術を取り入れず、学生の要望も聞かない保身にまわる研究室が多いことについて。
- ・大学格差を考えることもしてほしい。人も物も予算も差が大きいので。
- ・テーマは似たものでよいが、企業や官公庁の方をパネリストに加えてほしい。
- ・大まかなかんじは同じで良いと思う。
- ・博士課程を出た方々のキャリアパスについて知りたいです。
- ・文科ではなく、財務の役人をよんで、なぜ日本では教育のpriorityが低いのか議論してはどうか。

#### 【問10】本大会での属性調査（添付資料）をご覧になった感想をお聞かせください。

- ・たしかにシンポジウムのスピーカーにもっと女性を増やしてもよいですね。
- ・私は、女性には女性に向いたこと、好むことが傾向としてあると思うので、男女比について、女性が少ないというのは、そこまでこだわらなくていいと思う。もし、“女性だから…”という理由でやりたいことができない人が実際にいるのなら、それは問題ですが…。
- ・今すぐ答える時間がない（アンケート結果見る時間ナシ）。今回のランチョンセミナーのアンケート結果も後日Webで公開してほしい。
- ・まだまだ女性少ないな。
- ・とても良かったです。
- ・女性の少なさに驚きました……。
- ・5年後には正会員が学生会員程度の女性比率に増えてほしいと思います。
- ・あまり必要ないかな。



- ・学生発表に関しては意外に女性の比率が多いと感じた。
- ・ちょっと情報量が多すぎるかも。
- ・女性が少ない（修士以外）。
- ・女性のPIを増やすためには、女性専用枠を作るしかない。
- ・予想通り。
- ・読みにくかった。
- ・文字が小さい。
- ・まあ意外なところはなかった。
- ・女性研究者を支援する制度が必要になっている次期だと思います。
- ・現状について、男性・女性は満足なのか、どう思っているのか、むしろ知りたいと思いました。
- ・女性が少ないのという面があり、仕方がないのかもしれないが、女性が、女性がと言いつつ逆になるのでは。女性が、女性が、と言わないですむ社会になって欲しい。
- ・参考になる。
- ・なんとか女性を増やせないかなあ？
- ・女性が活躍できる機会をたくさん設けることが必要。
- ・女性の研究職への参画が、言われているほど簡単なことではないと感じた。
- ・男女比のバランスをとることは必要なのでしょうか。女性が研究者になりにくい社会である結果なのではないでしょうか。
- ・女性が少ないが、ゆっくり改善されつつあるのでは？
- ・オーガナイザーやスピーカーが固定化されていることが良くないのではないかな？

#### 【問11】 その他、ご自由にどうぞ。

- ・国の予算等のしくみから変えないと大学運営も教育も是正されないと思う。
- ・大変、参考になりました。司会も良く、ディスカッションがとてもしっかりあがりまして、とても良かったです。ありがとうございました。
- ・前半の講演は面白かった。ただ時間不足。司会自身が意見を言うのは良かった。文科省の方にももっと話してほしかった。
- ・博士、ポスドクの進路データを見たいです。
- ・博士修了者の進学先として、アカデミックや企業等で研究職にこだわった議論をすすめた理由が理解できません。アメリカもヨーロッパも報道やコミュニケーション、企業の営業も博士をもって、いろいろな分野に行ってます。そういう多様性を企画者は学生に示すべき！
- ・胡桃坂先生のお話もおもしろかったです。
- ・大学院としてどのような所を努力すればよいかの議論がなかった。
- ・ありがとうございました。
- ・今後も頑張って下さい。
- ・博士に給料、小林さんお願いします！！
- ・前に映し出される文字が小さくて見辛かった。
- ・司会の中々うまかった。
- ・大学院教育に、グラント取得のノウハウを教える授業を組み入れるべき。
- ・今回の会場の意見や、パネリストの意見など、Web 公開して下さい。
- ・面白かった。
- ・大学は基本的に少子化のため斜陽とならざるを得ない。それで文科省に「どうにかしてくれ」しか言えないのはあまりになさげなく、やはり斜陽やむなしと思う。
- ・副指導教員の話は参考になりました。小さな大学だと進路も限られるのでいろいろ考えています。自由にできると元気を付けるのもいいですが。経済的な制約（奨学金）などでやりたい様にできない人も多いと思います。
- ・私の研究室に配属される学生は大体は修士課程までです。修士1年春から約1年、インターンを含めて就職活動中心で、修士2年で修士論文発表会の日程が決まるころやっと少し実験するような状況。始めから研究を希望しているわけではなく就職に有利だからという気持ちの学生が多いような気がします。研究職を希望する学生が少ないのは現在「研究」が地味でネクラ、悪いイメージになっているからでしょうか？ そのわりには口頭発表をすすめても嫌がるような学生がいます。
- ・キャリア選択肢が広いことを学生が知ること、選択肢を増やすためのスタートラインに学生が立てるようにしてあげることが大学院の意義を高めるのではないのでしょうか。
- ・学生の方の意見は普段聞けないものもあって面白いけど、他人のせいにしすぎな気もしました。
- ・仕事を創るということがないと、キャリアも形成されない。就職先を確保するだけでは不十分で、大学は仕事の創造にもっと貢献すべき。
- ・地方大と都市部の大学の比較をしてほしい。
- ・内容が「月並み」になっていませんか？
- ・この議論を文科省に全部つたえてほしい！
- ・パネリストに地方大や中小大の人がいないのはおかしい。7人中5人が東京の人なんてありえない。
- ・本当にためになるお話でした。ありがとうございました。
- ・副指導の先生にも（自分の指導教官だけでなく）、違う視点からのアドバイスなどもっともらいに行こうと思いました。

#### 〈ケータイアナライズシステム〉

#### 〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）

#### 練習設問．皆さんの属性について教えてください。

|           |    |       |
|-----------|----|-------|
| ・学部学生     | 21 | 13.4% |
| ・大学院生（修士） | 49 | 31.2% |
| ・大学院生（博士） | 26 | 16.6% |



|                                                  |     |        |
|--------------------------------------------------|-----|--------|
| ・ポスドク、助教、講師、准教授、研究員等の非PI職                        | 25  | 15.9%  |
| ・独立助教・講師・准教授、主任研究員等の junior PI 職（非テニュア・テニュアトラック） | 9   | 5.7%   |
| ・教授等のPI職（テニュア）                                   | 19  | 12.1%  |
| ・企業                                              | 8   | 5.1%   |
| 計                                                | 157 | 100.0% |

設問 1-1. 大学院に進学した（する）理由は何ですか？学生の方のみ回答してください。

|                   |     |        |
|-------------------|-----|--------|
| ・アカデミック研究者になりたいから | 26  | 22.4%  |
| ・もう少し研究を続けてみたいから  | 55  | 47.4%  |
| ・企業への就職に有利だと思うから  | 18  | 15.5%  |
| ・就職活動に失敗したから      | 1   | 0.9%   |
| ・周りが進学するし、なんとなく   | 8   | 6.9%   |
| ・その他              | 8   | 6.9%   |
| 計                 | 116 | 100.0% |

設問 1-2. 大学院に進学した理由は何ですか？非PI職と junior PI 職の方のみ回答してください。

|                     |    |        |
|---------------------|----|--------|
| ・アカデミック研究者になりたかったから | 15 | 45.5%  |
| ・もう少し研究を続けてみたかったから  | 13 | 39.4%  |
| ・企業への就職に有利だと思ったから   | 2  | 6.1%   |
| ・就職活動に失敗したから        | 0  | 0.0%   |
| ・周りが進学するし、なんとなく     | 0  | 0.0%   |
| ・その他                | 3  | 9.1%   |
| 計                   | 33 | 100.0% |

設問 1-3. 大学院に進学した理由は何ですか？PI 職の方のみ回答してください。

|                     |    |        |
|---------------------|----|--------|
| ・アカデミック研究者になりたかったから | 13 | 68.4%  |
| ・もう少し研究を続けてみたかったから  | 6  | 31.6%  |
| ・企業への就職に有利だと思ったから   | 0  | 0.0%   |
| ・就職活動に失敗したから        | 0  | 0.0%   |
| ・周りが進学するし、なんとなく     | 0  | 0.0%   |
| ・その他                | 0  | 0.0%   |
| 計                   | 19 | 100.0% |

設問 1-4. 大学院に進学した理由は何ですか？企業の方のみ回答してください。

|                     |   |        |
|---------------------|---|--------|
| ・アカデミック研究者になりたかったから | 4 | 44.4%  |
| ・もう少し研究を続けてみたかったから  | 4 | 44.4%  |
| ・企業への就職に有利だと思ったから   | 0 | 0.0%   |
| ・就職活動に失敗したから        | 1 | 11.1%  |
| ・周りが進学するし、なんとなく     | 0 | 0.0%   |
| ・その他                | 0 | 0.0%   |
| 計                   | 9 | 100.0% |

設問 2. 教員ひとりに対する理想的な学生数は何人くらいでしょうか？

|       |     |        |
|-------|-----|--------|
| ・1～3人 | 57  | 50.9%  |
| ・4～5人 | 42  | 37.5%  |
| ・6～8人 | 13  | 11.6%  |
| ・9人以上 | 0   | 0.0%   |
| 計     | 112 | 100.0% |

設問 3. 大学院教育に何を求めますか？（複数回答可）

|                                |     |        |
|--------------------------------|-----|--------|
| ・ システマティックで質の保証された教育 ……………     | 23  | 14.0%  |
| ・ どこでも活躍できるような知的生産能力を身につける教育 … | 118 | 72.0%  |
| ・ とにかく研究だけであればいい ……………         | 17  | 10.4%  |
| ・ その他 ……………                    | 6   | 3.7%   |
| 計                              | 164 | 100.0% |

設問 4. 海外留学を考えていますか？

|                               |     |        |
|-------------------------------|-----|--------|
| ・ 既に行った ……………                 | 34  | 23.0%  |
| ・ これから行く予定 ……………              | 18  | 12.2%  |
| ・ 行きたいが、行けないかもしれない ……………      | 78  | 52.7%  |
| ・ 行ったことはないし、これからも行きたくない …………… | 18  | 12.2%  |
| 計                             | 148 | 100.0% |

コメント一覧

| No | ハンドルネーム    | コ メ ン ト                                                                                                                                 |
|----|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | SHOW       | 興味深い企画ですね。                                                                                                                              |
| 2  | 508        | 博士課程三回生です                                                                                                                               |
| 3  | 国立大助教      | 1. 論理的に考えさせる能力、アイデアを出す能力、建設的な批判をする能力、論文や申請書を書く能力、などを身につけるためのトレーニングが絶対的に足りない。<br>2. 講義や学会で手をあげて積極的に発言する学生がほとんどいない。これは出る杭は打たれる国民性によるものかも？ |
| 4  | S5         | M2 です                                                                                                                                   |
| 5  | drosophila | 大学院教育に関わる端くれとして興味深いです                                                                                                                   |
| 6  | ニスモ        | 今は修士ですが、博士に行くか就活するか迷い中です。博士に行きたいのですが……                                                                                                  |
| 7  | 研究員        | グラント、申請書の書き方も指導すべきでは。                                                                                                                   |
| 8  | hf         | 学部学生です。修士課程終了後の就職に不安を持っています                                                                                                             |
| 9  | J.J.       | 6 番さんと同じ境遇です。そろそろ決めないといけませんね……                                                                                                          |
| 10 | ゴールキーパー    | よろしくお願いします。                                                                                                                             |
| 11 | スズミ        | よろしくお願いします！                                                                                                                             |
| 12 | オカ         | オーバードクター                                                                                                                                |
| 13 | 竹子         | 現在修士課程のため参加しました                                                                                                                         |
| 14 | PPAP       | よろしくお願いします                                                                                                                              |
| 15 | たまろ        | わからん                                                                                                                                    |
| 16 | jh         | 文科省ではどれくらいが PhD 持ってるのでしょうか。論文や科研費申請書経験はある人が行政に組み込まれてるのですか？                                                                              |
| 17 | M1 です。     | よろしくお願いします                                                                                                                              |
| 18 | Marulro    | Hi                                                                                                                                      |
| 19 | NY         | B4 です。来年以降の参考にさせていただきます。                                                                                                                |
| 20 | とり         | よろしく！                                                                                                                                   |
| 21 | 学生         | 文科省の職員が、学部卒で博士のことがわからない……。これが現実…。文科省の職員に博士取得者を増やすのが、先な気がします。                                                                            |
| 22 | じゅげむ       | 学部生です、宜しくお願いします                                                                                                                         |

|    |               |                                                                                                                         |
|----|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 23 | Kiyopy        | 修士はともかく、博士に「もう少し」研究を続けたい、では無計画？                                                                                         |
| 24 | sendaitribune | アクセスできました                                                                                                               |
| 25 | ひき            | よろしくお願いします                                                                                                              |
| 26 | はらはら          | パネリストが一流のアカデミック先生ばかり                                                                                                    |
| 27 | oo            | 修士学生です、よろしくお願いします。                                                                                                      |
| 28 | H2AFZ         | 博士課程進学後のキャリアに大きな不安を抱えております                                                                                              |
| 29 | いしまる          | よろしくお願いいたします！                                                                                                           |
| 30 | とり            | 国立のうちは9人だ。多すぎ                                                                                                           |
| 31 | M             | 修士1年です。よろしくお願いします。                                                                                                      |
| 32 | レクチン          | なし                                                                                                                      |
| 33 | 砂糖            | 院卒は本当に就職に有利なんですか？                                                                                                       |
| 34 | がす            | 学部だけでは実際研究できていない、就活や授業で時間を取られるから、とりあえず続けて見たいから修士に行ったのではダメ？                                                              |
| 35 | 研究員           | 大学院生にも給料を払うことを義務づけるべき。そうすればおのずと数は均衡するはず。                                                                                |
| 36 | yamagata      | 大学院の授業料について議論してもらえますか？                                                                                                  |
| 37 | るちあーの         | 研究所のポストドク(約10年勤務)を見ていると、見えない来年、5年後、10年後に対する不安が伝わってきます                                                                   |
| 38 | toshi         | 修士1年です。企業研究者になりたいのですが不安です。インターンや募集も少なく就活はどのように動けばいいのでしょうか。                                                              |
| 39 | ねこ            | 指導教官と進学や博士取得後のキャリアパスについて話し合う機会がない                                                                                       |
| 40 | GT-R          | 現在のラボは1:20でさすがに多すぎます                                                                                                    |
| 41 | 508           | いち研究室に3-4人の先生がいるイメージなのでトータル研究室として10人を超えるくらいになる感じです                                                                      |
| 42 | さいこばす         | 1:14だ！                                                                                                                  |
| 43 | eel           | 少子化が進んでいるのに、学生定員をへらすべきではない、というのはおかしいのでは？                                                                                |
| 44 | 学生            | 私学なので毎年、学部生が6-9人、入って来ます。大学院には1割も進学しません。                                                                                 |
| 45 | 博士学生          | ポストドクになってしばらくしてから、やっぱり企業に行こう、ってのはそんなに難しいの？                                                                              |
| 46 | うみ            | もう少し研究したい、というのは、やってみて博士に行く(またはアカデミアに就職する)かどうかをもう少し研究してからきめたい、ということでしょうか？明らかに博士課程進学後の進路は不透明。それをわかって不安に思うくらいなら進学はやめた方がよい。 |
| 47 | SW            | 就職先が修士で出た時と博士で出た時とで同じであれば、あまり博士に魅力がないのではないかと                                                                            |
| 48 | H2AFZ         | 私の大学院は、教育しているというよりは、ただ研究をそのまま継続するだけの機関という印象です。                                                                          |
| 49 | D 院生          | 教員は研究以外の仕事も入ってきており忙しそうだから、今でも学生にかかる時間は少ないイメージ。抱える学生が多いと、一人一人を考える時間が少なくなり、十分な相談ができないのではないかと                              |
| 50 | JJ.           | ねこさん >> 確かにそうですね、卒業までしか話し合わないです                                                                                         |
| 51 | Kiyopy        | 博士課程に進学するか迷っている場合、基本的には「やめとけ」と指導してます！ そうしないのは、研究能力が高いかどうかではなく、つぶしが利く能力が見えている場合。                                         |
| 52 | た             | 大学院に進学して、優秀な研究者であっても良い教育者ではない人が多いことを実感しました。                                                                             |
| 53 | TT            | 学生も教員にキャリアパスの相談をしない。就職先を紹介しないとキャリアパスと思ってない。                                                                             |
| 54 | くろー           | 研究室や分野によっても就活の有利、不利があるのが厳しいところ                                                                                          |
| 55 | 寒い人           | 教授が雑務が多すぎて指導時間が少ない。研究費を取るためだったり、大学の会議だったり。                                                                              |

|    |          |                                                                                                                            |
|----|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 56 | k        | 高い学費を払っているのに、教育してもらえない、業績も出ない、就職もできないってこともあるのかも。そういう意味で質の保障された教育や、どこにでもいける能力を身につけられることは必須かとおもいます。                          |
| 57 | jh       | 研究担当教員と教育担当教員を分けないと無理です。学生はユーティリティな能力を身につけたい、教員は専門の研究を進めたい。基本的にミスマッチ                                                       |
| 58 | A        | 研究で成功したすごい優秀な学生を、就職させたいですか？                                                                                                |
| 59 | „        | 指導能力のない助教、講師が指導教員になってることが多い気がします。                                                                                          |
| 60 | asahi    | 企業への就職が有利になるから大学院に進学したい、ではダメでしょうか？ 企業で専攻と関係のある職に就くには現状少なくとも修士の学位が必要であることが多いです。                                             |
| 61 | 508      | 話し合うけど将来はケースバイケースだからなあという結論になることが多いです                                                                                      |
| 62 | も        | 大学院教育を変えるなら教授陣の意識統一をするべきだと思う                                                                                               |
| 63 | RA       | 地方大学でも教員の数が減ってきて、雑用が多くて、教育研究の時間が減ってきているのが現状です……。少子化だからこそ、大学・大学院の教育研究に力を入れて、優秀な人材を育てる必要があるはずで、教員の定員をむしろ増やす方向に転換した方が良いと思います。 |
| 64 | シウマイ     | なんとなく修士に行く人が多すぎるのでは？ 主体的に過ごせば自然と能力も付き、就職もできると思います。                                                                         |
| 65 | お        | 指導教官が、インターンシップなど就活に関わる事柄に対して嫌な顔をするので、自然と進路の相談をしなくなった                                                                       |
| 66 | H2AFZ    | 研究が目的である研究室と、就職が目的である学生との間に齟齬が生じるのは必然的なことだと思います。                                                                           |
| 67 | J.J.     | アメリカでは博士課程で給料が出るから多種多様な人が博士まで進める。                                                                                          |
| 68 | 修士1年     | 学生は受け身になっていることが問題ではないのか。受け身な学生は熱意がないように見えるし、指導する側もやる気がそがれる。結果として放置されているという思いになるのではないのか。                                    |
| 69 | よ        | 少なくとも修士出は、企業ニーズがあるイメージです。テーマ云々より、自分で問題を解決しようという意思がある、多少叩かれてもへこたれないとかいうことです。                                                |
| 70 | 学生       | ボスとの飲みニケーションが大事だと、博士課程に進んでから、よくわかりました。その時にボスはわざと研究以外の話をしてくれます。感謝です。                                                        |
| 71 | め        | だからドクターの質は落ちている？                                                                                                           |
| 72 | SW（修士2年） | 相談にのってもらわずとも、環境が整っていれば学生は自分たちでどうにかするのではないのか                                                                                |
| 73 | cam6     | 無計画に博士号取得者を増やすだけで、社会全体の博士のニーズは高まっていない。行政レベルで何かできることはないか。                                                                   |
| 74 | jh       | 論文なしで博士あげるのはダメだと思います。博士取得でセクションが働かないから価値がなくなったと思います。                                                                       |
| 75 | D 院生     | タイムマネジメントの講義を大学院教育でやってほしい。自分の研究活動（プロフェッショナルになる訓練）とキャリアについて考える時間を、うまくやりくりする力をつけていく必要がある。                                    |
| 76 | た        | 自分がどのような教育を受けたいか、具体的に語れ無い学生は少なからずいると思う。流れて今にいたるのに、望みが節は多い節はあると思います                                                         |
| 77 | J.J.     | 小林さん期待してます！                                                                                                                |
| 78 | なな       | おっしゃる通りで、教員の中には(特に50代以上)アカデミア以外の進路を見いだせない、しらない、許せない人がある。こんなに時代が変わったのに。                                                     |
| 79 | sf       | 大学院の学費を下げる                                                                                                                 |
| 80 | k        | 大学院生はもう少しきちんとセクションして数を減らしていいので、おっしゃるように給料を出すなり、学費をなくすなりしてもらわないと、学生は将来への負担と金銭の負担しか残らない。                                     |
| 81 | AK       | 教授が就活に理解を示していません。                                                                                                          |
| 82 | Kiyopy   | 学生の人格を大人として尊重してますか？                                                                                                        |



|     |           |                                                                                                                                                                                                                |
|-----|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 83  | 碧         | 学部生用の就職支援セミナーと必修科目の実験（一つの実験でもサボると留年）が重なるせいで就活できずに院に行くしかなかったのですが                                                                                                                                                |
| 84  | ニスモ       | その通り、しかし、それで将来が明るくなるかはわからない                                                                                                                                                                                    |
| 85  | I.T       | コミュニケーションとれそうな先生ととれなさそうな先生の差が大きい気がします                                                                                                                                                                          |
| 86  | ある助教      | 研究を通して「自発的に物事を考える」事を学ぶのが大学院と考えてます                                                                                                                                                                              |
| 87  | sf        | 修士課程では研究を頑張っても企業には評価されず、何もしないまま卒業する人と同様に扱われ、就活をずっとしている人の方がむしろ就職に有利な状況になると研究のモチベーションが下がります                                                                                                                      |
| 88  | 砂糖        | ボスも研究員も子供がいて飲みいけないです、どうしましょう                                                                                                                                                                                   |
| 89  | 助教        | モラトリアムで進学する学生が大半の現状で全大学院生に給料を出すのは反対。学振の枠を増やすなどで対応しては？                                                                                                                                                          |
| 90  | びち        | 選択肢として企業が博士の能力を信用していない以上は、学部卒や修士卒での就職を選びがちになるし、その進路上で研究室と密着することが良いとは考えづらいですね                                                                                                                                   |
| 91  | とり        | このセミナーいいけど、うちの教授がきいてないから意味なくて悲しい                                                                                                                                                                               |
| 92  | 。。        | ラボローテーションとか導入してほしいですね                                                                                                                                                                                          |
| 93  | N         | 教員の人たちは、教育についてどれぐらい真剣に向きあおうとしているのか？人材教育と研究推進の能力は別物なので一致しないことも多い。                                                                                                                                               |
| 94  | D 院生      | ポストク量産計画って、企業や行政で働く博士取得者を増やすための計画じゃなかったのですか？その段階で大学院教育を考えておく必要があったのに。なにか政策を立てるなら、その本来の目的を具体化して考えるようにしないと、なにを行なっても本末転倒になる気がします。                                                                                 |
| 95  | 飲み会は好きだけど | 酒の力を借りないとコミュニケーションとれないのは問題。                                                                                                                                                                                    |
| 96  | saku      | 自分の興味で研究室を選ぶのは間違いなののでしょうか？                                                                                                                                                                                     |
| 97  | rdntia    | 自分で選んだ大学院進路や研究室なのに、全て教員側が悪いように言うのはおかしい。学生側の甘えが大きすぎる。                                                                                                                                                           |
| 98  | k         | 教員数やポストを開けるのも大事だが、今いる教員にも「指導をきちんとしているか」とか「研究しているか」とかで定期的な査定をして、なにもしない人のポストを開けてほしい。                                                                                                                             |
| 99  | 大学院教育     | 研究室ごとの格差が大きいのは事実だと思う。ただし研究室に配属される学部の段階では、各研究室で何を学べるのか分からないし、気付いても自由に研究室を変える事は難しい。システムとして課程中にも研究室間を自由に動けるような仕組みがあったらいいのでは。                                                                                      |
| 100 | D-loop    | 博士課程の学生に給料が必要なことは同意。しかしこれは教授がふところをいためなければだめ。そうしたらより博士課程に進学すべき学生を選択できる。free laborとして学生を受けいえることにより学生にとっても不幸な結果をもたらす。もちろん上記ができるためには、文科省からの大学への運営交付金を増加させる必要あり。地方大学などにも面白いアイデア、研究を行う人材は多くいるが、研究費がないことが大きな障害となっている。 |
| 101 | ゆう        | 就活をしてみてわかったことは、博士課程学生は企業での研究がどんなものかイメージできていない。その点をもっと大学で教えれば視野が広がる学生も多いと思います。                                                                                                                                  |
| 102 | Kiyopy    | 大学院重点化したのに、博士課程学生増えても少子化だから教員減らすのは、おかしい                                                                                                                                                                        |
| 103 | けんじ       | 半年間インド旅行に行くのと就活するのは同じじゃないの？                                                                                                                                                                                    |
| 104 | asahi     | つぶしが利く分野だからって博士が増えるとは限らないですよ。                                                                                                                                                                                  |
| 105 | No name   | 資源のない日本では、人材育成がとても重要なのではないのでしょうか。                                                                                                                                                                              |
| 106 | ある助教      | ここに聞きに来ない教授はキャリアパスに興味が無い                                                                                                                                                                                       |
| 107 | "         | 学生のキャリアパスを問題視していない先生はそもそもこのセミナーにきていないのでは                                                                                                                                                                       |
| 108 | Kiyopy    | 博士課程中退は修士卒より高い学歴と評価して！                                                                                                                                                                                         |
| 109 | k         | 学生が確固たる研究職への目的意識がない限り、博士への進学は勧めない。修了後のリスクが高すぎるから。そもそも研究したくないなら早めに就職した方が収入も入るし社会経験も積めて絶対学生のためになるので、研究への意欲があまり高くない学生には積極的に就職を勧める                                                                                 |

|     |          |                                                                                                                                    |
|-----|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 110 | H2AFZ    | 博士課程に対する給与は、ネガティブドクターの増長に繋がりがねないと思う。セレクションを慎重にすべき。                                                                                 |
| 111 | B4       | 3,4年の間いくつかの研究室にローテーションで所属できるような制度がほしいです。それから大学院のラボを選びたいです                                                                          |
| 112 | JJ.      | >> ○○○さん 全くその通りですね                                                                                                                 |
| 113 | 学生       | インターンシップ！本人が希望して、行かせなきゃ、アカハラで訴えられう。就活決まってる学生を卒業させなきゃ、大学の就職課から文句言われてる先生たち。かわいそう。                                                    |
| 114 | た        | 副指導教官のシステムを知りませんでした。うちにはありません。                                                                                                     |
| 115 | たま       | 確かに制度は充実しているかもしれないが、研究室を移しても毎日毎日元の指導教官と会うような環境ではその制度はとても活用しにくいのではないかな。                                                             |
| 116 | asahi    | 研究職のインターンは1～3週間かかるものが多く、行きたいとはちょっと言い出しにくいです。                                                                                       |
| 117 | n        | 教員と副指導教員との間で板挟みになってた先輩がいたから必ずしもいい制度というわけでは無い気がする                                                                                   |
| 118 | あい       | ひまで元気なお年寄りを大学院に大量に入れたらどうでしょう？福祉と教育をまとめたら、国は予算くれるのでは？                                                                               |
| 119 | M1       | うちの研究室の教授もこのセミナーを聞いてほしい…                                                                                                           |
| 120 | 大学院教育    | 今のシステムをどう変えたら良いかという話も聞きたいです。                                                                                                       |
| 121 | リーディング修士 | 複数の指導教員や分野を知りに行くことはとてもいいと感じています。ただ、学生が能動的でないと上手く行きません。                                                                             |
| 122 | Kiyopy   | 企業の研究者を特任教員として、研究ではなく学生指導に参加して貰えば、企業が求めるものを知る機会になる                                                                                 |
| 123 | 508      | 大学の就職課としては就職率>研究成果というよくわからない方針になっている感じが問題の一因かなと思います                                                                                |
| 124 | D        | 私の場合は、副指導教員の先生に一度相談をさせていただいた後、3ヶ月に一度くらい副指導教員のほうから『最近どう？』とわざわざメールをしてくてくれます。感動しています。                                                 |
| 125 | たくてー     | 学生はお客様なのでしょうか？                                                                                                                     |
| 126 | さとう      | 学生は自分が何をしたいのかじっくり考える時間が必要だと思います                                                                                                    |
| 127 | Kiyopy   | この企画、期待を遥かに超える内容 参加して良かった。ありがとう！                                                                                                   |
| 128 | とり       | 今検索してみたけど、うちの大学には副指導教官いなかった                                                                                                        |
| 129 | JJ.      | >> ○○○さん 微妙ですよ、学費は払ってますが…                                                                                                          |
| 130 | 508      | インターンの問題は企業が大学に来て実験してる学生を取りに来てくれ。そうすれば、学生はインターンに行かず実験して、企業は優秀な学生を取れる。教授は企業の人を呼んでくれ                                                 |
| 131 | た        | 副指導教官の導入に、大学ごとで差があるのはなぜですか                                                                                                         |
| 132 | rdntia   | 大学院進学のための目的は、自らの能力の向上に必要なものを、自ら発見して培うという方法を学ぶことにあると思います。その点で、学生はハングリー精神が足りないし、逆に教員側も、インターンなどそのような能力を養う機会などに反対する人は本質を理解できていないと思います。 |
| 133 | TA       | 教育専任の教員を増やす                                                                                                                        |
| 134 | 青 (M1)   | 副指導教官良さそうだけどさらに教員の仕事増えるな…                                                                                                          |
| 135 | 助教       | 大学教員は学生さまに気持ちよく学位を取ってもらうのがお仕事です。                                                                                                   |
| 136 | **       | 先生がアカハラになることを恐れすぎて、学生の進路や研究に口を挟まなくなってしまった結果、コミュニケーションがとれなくなってる気がする                                                                 |
| 137 | 地方大      | 本学は講座制。教授が指導教官、准教授が副指導教官。                                                                                                          |
| 138 | LP       | 副指導教員に限らず研究室の中の縦の関係だけでなく、研究室を超えた横の関係が学生のメリットになるのでは                                                                                 |

|     |          |                                                                                                                 |
|-----|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 139 | D        | 私の場合、副指導教員以外の先生にも相談させてもらってます。それは、研究科の集まる行事や、学会などでご挨拶させていただき、相談にのってもらったりしています。学生の相談に親身になってくださる先生が多いことに、学生は気付くべき。 |
| 140 | 508      | うちは副指導制度あるけど、副指導教官を決めるのは教授だからなあ あんま意味なし                                                                         |
| 141 | saku     | うちの大学はかなり閉鎖的です                                                                                                  |
| 142 | たま       | 副指導教官が垂れ込む怖さが払拭できないのはいかがなものなのか。副指導教官と指導教官に力関係があったら意味がないので、全く関係のない第三者がいた方がより機能しそうだと感じた。                          |
| 143 | じゅげむ     | 確かに、自分が関わっている研究が社会にどう還元されるのか、意味をもたらすのか あるいは単純な知的好奇心からなのかはきちんと知りたい                                               |
| 144 | sf       | 学生の質と熱意について、受験すればほぼ誰でも修士課程に進学できることが原因の一つではないでしょうか？                                                              |
| 145 | なんでだろう   | 大学に副指導教官の制度があっても、活用してない研究室が多いです。                                                                                |
| 146 | 508      | 〇〇〇の意見は同意                                                                                                       |
| 147 | Kiyopy   | ブラック系が専攻内で幅をきかせてると副指導教官を導入しないだろう                                                                                |
| 148 | asahi    | 副指導教員制度でなくても、研究室外の人脈が作れば良いけど…学生相談室ももっと活用できれば                                                                    |
| 149 | M        | コミュニケーションが取りやすい取りづらいに関しては、自分の考え次第な部分もあるかと思うのですが。指導側に問題があるとは限らないと思います。                                           |
| 150 | ころん      | 大学教員は男性の方が多から、女性としては同性の副指導教官がいたら嬉しい…                                                                            |
| 151 | asahi    | 無理とは思いますが、研究室ごとのドロップアウト率を公開して欲しいですね。                                                                            |
| 152 | k        | どこのラボでもポストがいるわけではないですよ、雇うためには一定の科研費とれないと、ラボの運営だけでいっぱい                                                           |
| 153 | J.J.     | アメリカは何で博士に給与なんて出せるんですか？                                                                                         |
| 154 | jh       | 助教などの中間管理職のことも考えてください。プレーヤーであるべきか、トレーナーであるべきか、全くコンセンサスがなく、業績評価も人により価値観が異なります。                                   |
| 155 | student  | 英語で意思疎通ができないので、向こうで引きこもってしまいそうです…                                                                               |
| 156 | SW       | 最終的にお金                                                                                                          |
| 157 | GT-R     | 海外留学の詳細が不透明すぎるのが問題なのではないでしょうか？                                                                                  |
| 158 | な        | 学生は、高齢ポストや任期付き教員の行く末をじっと見てる。結局、彼らの問題が解決しないと、無理では？希望を持って進学する人は少ないでしょう。お手本、モデルがいないとキャリアパスも考え辛いな？と思います。            |
| 159 | 博士       | 博士課程が学部生教育に関わり、その報酬を出す。(TAの役割を強化する)                                                                             |
| 160 | ぴち       | 英語の拙さを理由にしてたら一生海外に行けないよ                                                                                         |
| 161 | JH       | イギリスいきたいけど Brexit の影響が不安です                                                                                      |
| 162 | yamagata | 副指導教官いいですね。でもまた仕事が増えそうで怖いです。                                                                                    |
| 163 | No name  | 外に出ると、自分の国である日本の見方が変わります。                                                                                       |
| 164 | ra       | うちの大学では半年ごとにチューター面談制度があります。                                                                                     |
| 165 | N        | 東山先生は猪突猛進型です。                                                                                                   |
| 166 | H2AFZ    | 行き当たりばったりは今の時代でも通用するのでしょうか                                                                                      |
| 167 | 学生       | 行き当たりばったり！<br>そういう話を、学生に沢山して下さいよ！                                                                               |
| 168 | 砂糖       | 将来日本にいる意味がないのは賛成                                                                                                |
| 169 | plum     | 行ってみたい気持ちはあるのですがお金が……                                                                                           |

|     |        |                                                                                                                                          |
|-----|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 170 | Kiyopy | 司会者は司会しろ                                                                                                                                 |
| 171 | bas    | このセミナーは、なぜ大学や教員側が悪い前提で話が進んでいるのでしょうか。僕は修士の学生ですが、学生の中には甘い考えの人が多いいと思います。教員側が思う学生の問題点も挙げて、学生の考えとの相違点をまとめる必要があるのではないですか。                      |
| 172 | JJ.    | >> ○○○さん 心に刻みます                                                                                                                          |
| 173 | asahi  | ただ、ずっと海外だと家族の理解が不可欠ですね。                                                                                                                  |
| 174 | 学生     | 海外ポスドク向けフェローシップを増やして欲しい。                                                                                                                 |
| 175 | mTOR   | 海外の研究室のを見つけ方を教えて下さい                                                                                                                      |
| 176 | D 院生   | 博士としての資質がほしいなら、1つのことを深めることがもちろん重要かも知れないけれど、自分の専門を広い英知の中の1つであるという、俯瞰的に物事を見る視野を得ることが重要なんじゃないでしょうか。海外に行く、ラボを変える、というのは、それを実感する大切な機会だと思っています。 |
| 177 | 疑問     | 行き当たりばったりで大丈夫だったのは、なにより研究を誰よりもやってるから。それがないと、行き当たりばったりは成功はしない。今の学生はそこまでの熱意が研究にあるのか？                                                       |
| 178 | 。。     | 独身なら留学はためらいなくできますが、共働きで新婚の場合なかなか留学しようとは思えないです。                                                                                           |
| 179 | eel    | 行き当たりばったりで、どうにもならなかった人はここにはいない。                                                                                                          |
| 180 | アメリカ   | 留学行ってきたけど、楽しいよ！                                                                                                                          |
| 181 | 負け酒    | 研究職につかないとダメみたいな風潮きらい                                                                                                                     |
| 182 | RA     | 海外留学は絶対に行くべきです！目から鱗の体験ばかりで視野や世界が格段に広がります！                                                                                                |
| 183 | JJ.    | 起業家的な人が向いてるって事なんですかね w                                                                                                                   |
| 184 | 学生     | 欧米以外への留学はどうですか？ シンガポールやオーストラリアもあり？                                                                                                       |
| 185 | saku   | 学生の間違った考えを正すのも教員の仕事でしょ                                                                                                                   |
| 186 | りんご    | ベンチャーとかかなりアクティブな提案だけど、将来考えたら不安。アドバイスするのは簡単だけど、い、                                                                                         |
| 187 | :      | 今どきメールとスカイプでインターンや就職が決まってしまうのだから、結局やる気と勇気次第にみえる                                                                                          |
| 188 | JJ.    | >> りんごさん 同意です                                                                                                                            |
| 189 | Kiyopy | でも、いい司会でした。ありがとうございます！喋りすぎも許容範囲です。                                                                                                       |
| 190 | 砂糖     | 将来お金持ちになりたい、どうすれば…                                                                                                                       |
| 191 | ー      | 大学発ベンチャー                                                                                                                                 |
| 192 | あああああ  | 理想はいろいろ言えるけど、予算の保証がないと絵に描いた餅でしかない。文教予算が減り続ける現状を変えないと。ちなみにうちの研究科では主指導教員が学位主査になれないようにしました。                                                 |
| 193 | 企業     | も大変ですよ。どこでも猪突猛進の人達が活躍していると思います。そう人達が企業に来て欲しいです！                                                                                          |
| 194 | 不安って？  | 何が不安？安定な仕事を求めるなら研究職をやめた方がよい。新しいものを作り続けることは不安との闘いだから。                                                                                     |
| 195 | plum   | 学部生で長期留学すると学年が下がってしまうし、ダブルディグリーはお金が掛かるし、院生で留学するのはさらに難しいのでは？                                                                              |
| 196 | cam6   | 留学、良い面ばかりではない。歳を取りすぎると日本で仕事が見つからず、帰って来れない                                                                                                |
| 197 | お疲れ様です | 来年も胡桃坂先生司会で！                                                                                                                             |
| 198 | tw     | 台湾でもいいと思います。                                                                                                                             |
| 199 | jh     | 文科省から研究室にインターンして論文出したらいい                                                                                                                 |